

幼 兒 教 育

第 二 十 八 卷 四 月 號 第 四 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

帝國美術院會員
東京美術學校教授

岡田三郎助先生・丹羽禮介先生共著

六學校 家庭版

クレヨン畫集

其の描き方
菊石作定 全五冊 判版三金 全五冊 全五冊 全五冊 全五冊
一冊 八錢 八錢 八錢 八錢 八錢
冊別餘錢 十八 十八 十八 十八 十八

素描の彩色の過程を明かにした模範クレヨン畫集の殿堂

自由畫とクレヨン畫とを混同するに圖書教育法は、既に時代遅れです。……兒童に到底大人の及ばない純真な物の觀察力を生得して居るとしても、指導者に依つてその正しい視方の會得の仕方と表現法を學ばなければ、劃一的の圖書教育の効果は絶無であると言ふ趣旨に基き、先づ指導者に對する希望と、クレヨン畫の眞隨を敍べ、岡田・丹羽兩畫伯の筆程を懇切丁寧に實例に於て説明してあります。故に本書は指導者に取つては又なき好資料で、兒童に取つては飽くなきクレヨン畫の寶庫です。學校教育家並に家庭の必備を乞ふ。

東京美術學校教授
岡田三郎助共著
丹羽禮介著

五版

學校家庭版

學校家庭版
應用圖書畫集
其の描き方

菊判一冊 洋綴
定價金參圓八拾錢
送料拾八錢

本書は其應用の範圍頗る廣汎にて圖書教育は勿論ポスター、表紙、裝釘、染物、編物等行く所として可ならざるなし。本書一本に據りて充く圖案の作意を會得し、且つ製作家たり得る教育者並に一般興味家に絶好の參考書と信す。

帝國美術院會員
東京美術學校教授
岡田三郎助共著
丹羽禮介著

三版

學校家庭版
教育略畫集
其の描き方

菊判全一冊
石版色刷八錢
作畫千有餘
價參圓八拾錢
送料拾八錢

寫眞ゴスケツ
手を應用した
略畫の描き方

兒童の繪畫教育は略畫が簡明で、最も價値に富む。蓋し本書公刊の所以である。先づ人體、風景、花鳥、獸等の作畫千餘を國定教科書の各科に取材し、其作畫一々に就て曲線、直線の使用法、原色、補色、間色の鹽梅、並描法を説明し、猶寫眞スケッチを挿入して、其事實をも明示す、全科に互り具體直觀の効果を擧げ得。

兒童の繪畫教育は略畫が簡明で、最も價値に富む。蓋し本書公刊の所以である。先づ人體、風景、花鳥、獸等の作畫千餘を國定教科書の各科に取材し、其作畫一々に就て曲線、直線の使用法、原色、補色、間色の鹽梅、並描法を説明し、猶寫眞スケッチを挿入して、其事實をも明示す、全科に互り具體直觀の効果を擧げ得。

發行所 東京市牛車田區 文庫館書店 電話 三三八番 電話 二七番

東京女子高等師範學校教授
同附屬高等女學校主事 倉橋惣三氏著

幼稚園雜誌

◆四六判特製美本函入
◆定價金貳圓五拾錢
◆送料金拾八錢
◆紙數五百二十餘頁

東京市日本橋區大傳馬町二丁目
内田老鶴圃
振替東京一二一四六番
電話浪花一三三五番

最新刊

教育の理論を説いた書は多い、方法を教へた書は更に多い。しかし教育の心を語つた書は少ない。とけわけて眞に幼児の生活に觸れた書は更に少ない。現代の日本が生んだ唯一の幼児教育の權威たる著者は、永くお茶の水の幼稚園の主事として令名噴々たる人、本書は著者が多年幼児の間に在つて體得した獨自の感想と考察とを述べて、幼兒の生活を中心とした人間教育の眞意を味到せしめんが爲めに、教育者と家庭の母とに贈つたものである。或は詩趣に充ちた感想文があり、教育の理想國を描いた創作があり、或は著者の溫容を彷彿せしむる講話があり紀行觀察錄がある。豊かなる興味と深き感銘と清き教訓とは、そのまゝ著者の心より讀者の胸へ流れ渡つて盡きないものがある。

◇本卷内容目次◇
 園丁雜感 一致の前途 人間の偉大
 自然との一致 日光の子ども 國
 布袋 親しむ心 新らしみ 尊
 寒風 春が来るが 外へ外へ 學
 正月 春よ 春が来るが 夏や 雨の日 秋
 野 春のほろも 夏や 雨の日 秋
 來た 幼稚園の遺跡 立ち上つて 後
 水に歸る 春の行啓 夏が來ました 茶
 大災の幼稚園 1 森の先生 2 ガ
 主眼 3 園藝主任 4 研究會 5
 詩の會 6 應接間 7 研究會 8 新人
 夏子 9
 幼稚園の生活 幼稚園は如何なる處
 幼稚園の此頃 新入園児を迎へて
 幼稚園を終了する兒童達に 家庭と幼
 んを初て幼稚園に送る方に 子と幼

幼稚園の朝 個人對話の教育價
 園外保育の場 砂場の眞實 斯く
 育てたしと思ふこと 教育問答 斯く
 教育者 幼稚園の保母 保母そ
 教育の第一義 我等は幼兒を尊重す
 人なればならぬ 積極性 新から學べ
 よ 幼稚園の教育の積極性 新から學べ
 斯くてまた暮れ行く 機械の上
 あしと婦人 女史を憶ふにつ
 けて 1 ベルの日に 2 フレ
 幼稚園の特色 1 フレ 2 フレ
 幼稚園の特色 1 フレ 2 フレ
 學校と幼稚園の連絡 高等女
 英國の保育學校 1 ナー 2 グロ
 大學の幼稚園 1 ナー 2 グロ
 幼稚園 (目次終り)

◇幼兒に聽かせるお話
 倉橋惣三先生序
 日本幼稚園協會編
 定價參圓八拾錢
 送料拾八錢

◇幼稚園保育要目
 萬國幼稚園協會案
 日本幼稚園協會譯
 倉橋惣三先生序
 定價壹圓五拾錢
 送料拾貳錢



育教の兒幼輯編會協園稚幼本日

會長

東京女子高等師範學校校長

吉岡

郷甫

主幹

東京女子高等師範學校教授

堀七

藏甫

贊助員

東京高師教授

巖谷秀雄

東洋大學教授

高島平三郎

東京帝大醫科講師

太田孝之

東京女子高師囑託

土川五郎

東京高師教授

大瀬甚太郎

帝國教育會理事

野口援太郎

慶應大學教授

唐澤光德

松江高等學校校長

乘杉嘉壽

東洋幼稚園長

岸邊福雄

京都帝大教授

野上俊夫

早蕨幼稚園長

久留島武彦

東京女子高師教授

倉橋惣三

東京高師教授

佐々木秀一

東京女子高師教授

松村武雄

東京女子高師教授

下田次郎

東京帝大教授

松本亦太郎

東京女子高師教授

菅原教造

奈良女子高師校長

横山榮次

醫、文博

富士川游

奈良女高師附屬幼稚園主事

三田谷啓

東京市教育局長

藤井利譽

東京帝大教授

川正雄

東京女子高師講師

藤五代策

東京帝大教授

湯原元一

文部省

福士末之助

東京女子大學長

吉田熊次

文博

谷本富

東京女子大學長

安井哲子





第二十八卷 幼兒教育の第四號

口繪 ベスタロチーフレールハウス

私が視察した歐米の幼稚園教育……………堀 七 藏……………二頁

我が園に於ける群團テストの實際……………
東京市番町小學 校附屬幼稚園……………一七頁

性質の生物學的考察……………哲 化 人……………二五頁

五月の幼兒生活……………卜 部 た み……………三二頁

保育要目配當表……………熊本幼稚園……………四三頁

童話……………水谷年惠……………六〇頁

時計の歌…………………………六八頁

雜錄…………………………七一頁

桂田金造先生著

四六版三一八頁
肖像十七葉挿入

定價金壹圓七拾錢
送料金拾貳錢

趣味の偉人物語

最新刊

やさしく、美しく、うるほひあり、親しみあり、そして、力ある貴い光のやどされてゐるのが、この趣味の偉人物語であります。これは、著者の天才による獨創的の産物でもありませんが、少年の讀み物に對する著者の眞面目な責任感と、それにふさはしい著者の非凡な努力とが、やがてこの物語を産み出したのであります。

本書がいかに、吾少年少女達の心靈の上に、燦爛たる光明を投じ、イカニ彼等をして強い自奮と自治の精神を起さしめるかは、多く説かずして明かでありませう。

一次目

- 一、楽しい希望(フランクリン)
- 二、奮闘兒(高峰讓吉)
- 三、學理の探究者(ダーウキン)
- 四、發明王(エヂソン)
- 五、自然の美を求めて(ミレー)
- 六、深く考へ力強く行へ(トルストイ)
- 七、眞の英雄(ワシントン)
- 八、男兒の意氣(ガリバルヂ)
- 九、人生最高の仕事(フレールベル)
- 十、先驅者(大隈重信)
- 十一、人道のために(リンカーン)
- 十二、愛の生命(ニューコング)
- 十三、忠烈の人(乃木希典)
- 十四、樂壇の寵兒(グノー)
- 十五、趣味の兄弟(光琳と乾山)
- 十六、貧兒の成功(カーネギー)
- 十七、世に出でし第一の人(クリスト)
- 十八、智も亦東より開く(孔子)
- 十九、我獨り尊し(釋迦)

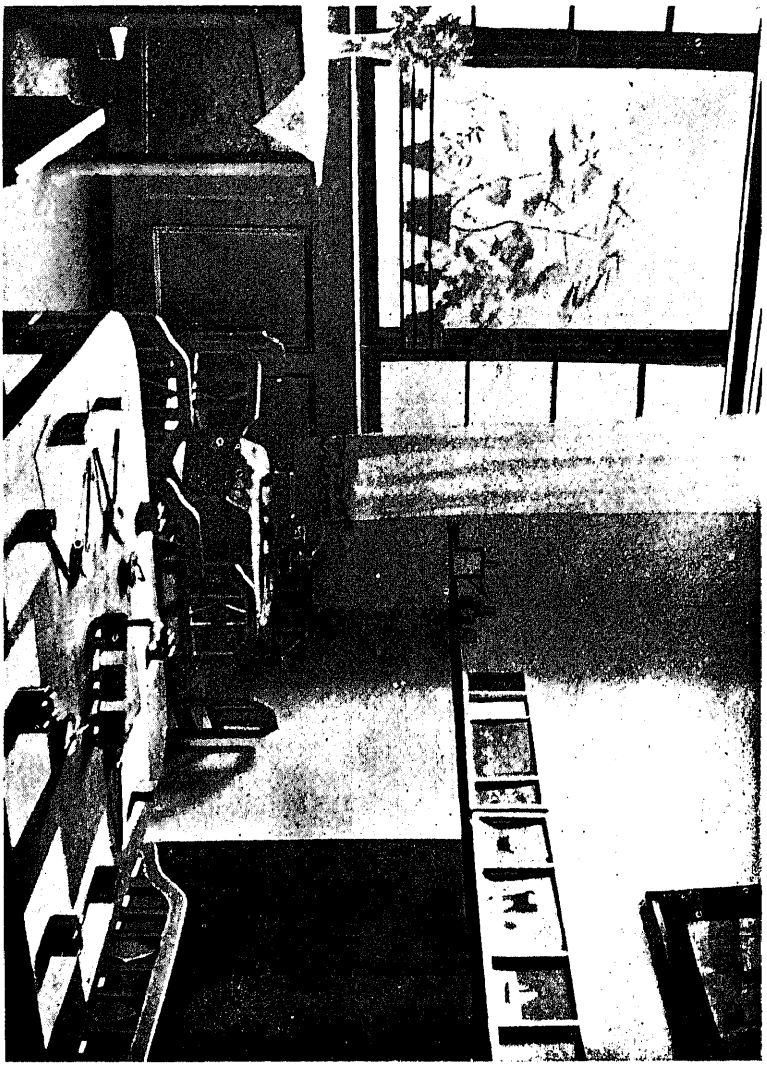
振替口座
三四五番
東三番
京東番

文 教 書 院

株式會社

東赤城
牛元町
込

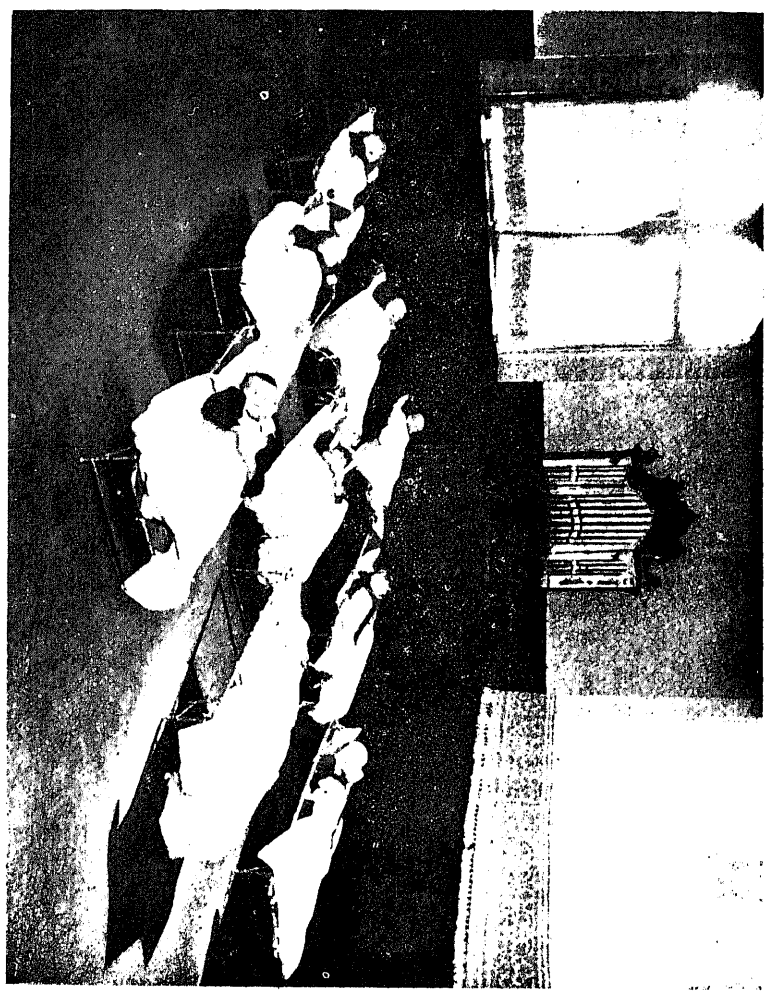
(一) スヴァルムネーローチロダス



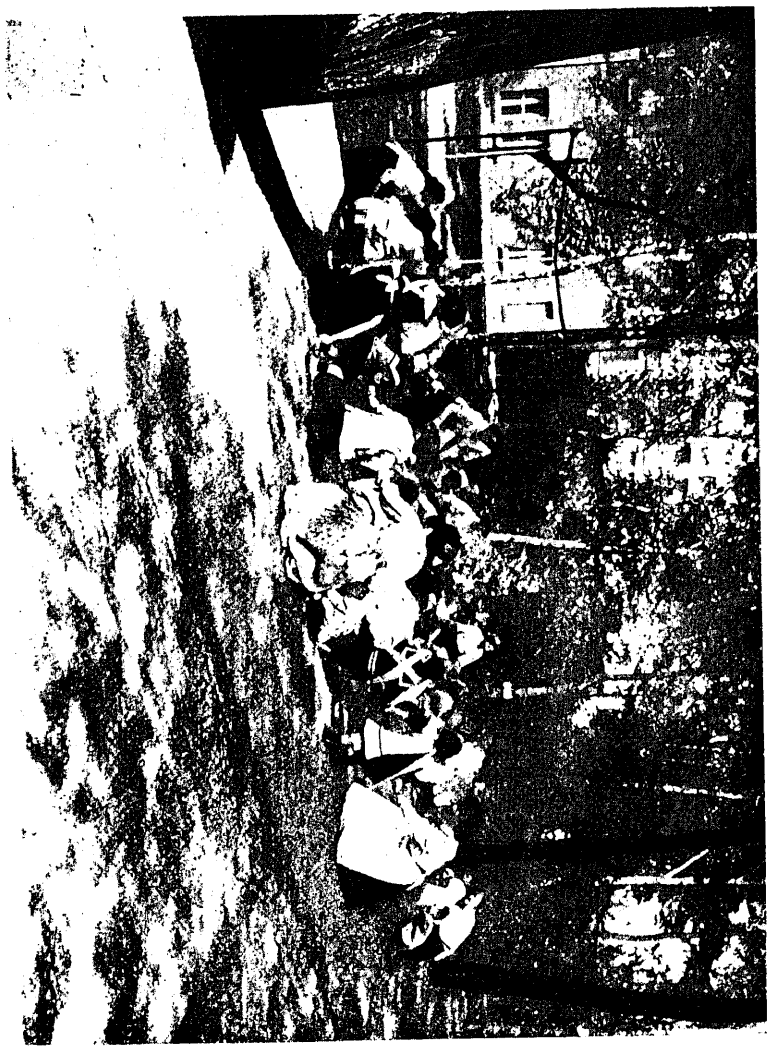


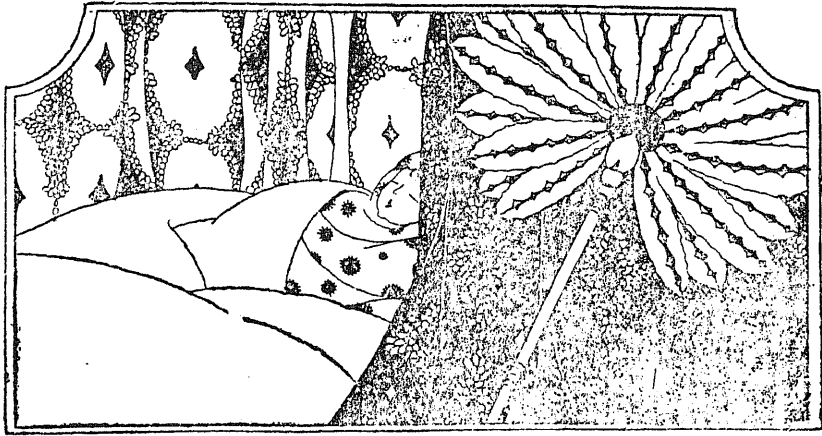
(二) スクールのレジャータイム

(三) スウハルメーシヅチロダスベ



(14) スウハルニエーレンーチロクスベ

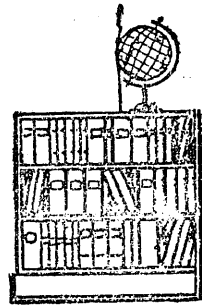




號四第 育教の兒幼 卷八十二第

月四年三和昭

- 一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々、家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。
- 一、家庭教育の短を補ひ幼児の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。
- 一、幼児の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。
- 一、幼児の教育は幼児の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。



私が視察した歐米の幼稚園教育

堀 七 藏

一、ベルリンの幼稚園

ベルリンには比較的幼稚園が少いのであります。それは獨逸の家庭教育が他の歐羅巴諸國よりも比較的によく行はれてゐるからであります。どこを旅行しても子供を連れた婦人を見ることが甚だ稀であります。獨逸では例外のやうであります。獨逸の家庭は主婦が一切萬事を處理してゐるものが多いから育児のことも母親の手にあることが多いのであります。獨逸婦人には子供を連れて用達をしてゐるものが比較的によく見受けられます。私の眼に映したところを率直にいへば日本と獨逸が子供の國といつてよいと思ひます。我國程に子供は可愛がられませんと同時に我が國程子供が大人の犠牲になつたり玩具になることが少く、眞に家庭教育が行届いてゐるやうに思ふのであります。

ベスタロチーフレーベルハウスはベルリンに於ける最も優良な幼稚園であります。一八六六年の創立であると申しますから私が參觀した一昨年は丁度六十年我が國最初の幼稚園、現在の東京女子高等師學

校附屬幼稚園よりも正に十年の年長者であります。當時は二十名の幼児を集めて午前九時より十二時。午後二時より四時まで保育したものであると申します。何れペスタロチー氏の教育主義フレーベル氏の教育理想によりて幼稚園教育を始めたものに相違ありません。現在のペスタロチーフレーベルハウスは多くの幼稚園を大ベルリンに持つてゐます。私の參觀したのはシエーネベルグの幼稚園でありました。が、シエーネベルグに三ヶ所、ベルリンに三ヶ所もあります。それで幼児数は年によつて變化がありますが、四百以上五百人收容せられてゐます。このペスタロチーフレーベルハウスは火曜日を參觀日と定めてあるので他の日には參觀が出来ません。それで私は一日しか參觀しませんが、ペスタロチーフレーベルハウスの幼稚園の状況を説明するよりも口繪の寫眞を観察していただく方が便宜と思ひます。口繪の(一)は保育室を示すものであります。真中のテーブルを圍んで幼児が腰掛けて作業するのであります。壁には幼児向の繪が額となつてゐますし、幼児の畫いた繪が澤山額として陳列するやうになつてゐます。窓のところには鉢植を陳列することが出来ます。これは幼児が世話するのであります。獨逸の幼稚園のみでなく凡て歐米の幼稚園ではこの自然物に親しましめることに努力することは日本で想像するよりも一層著しいものがあるのであります。幼児の生活は八分通りまで自然物を相手とした生活であります。しかし、世の文化がすゝむに従つて人類の生活は自然物から遠ざかる傾向がありその爲めに幼児が早熟となるのでありますから特に注意する必要があります。我が國の觀察なども自然物に關する知識

を注入することよりも自然物に親ましめることを本體とせねばなりません。

口繪の(二)は幼児が家事の手傳をなす所であります。獨逸の家庭に於て一切のことを主婦がなすのでそれを手傳ふことは幼児の作業として當然行はれる所。これを幼稚園生活作業の中に取り入れて行ふのであります。保母が幼稚園にて使用するもの又は幼児のエプロンなどを洗濯してそれを干すときに幼児が手傳ひするのであります。これは單に洗濯の御手傳だけではありません。幼児の手で出来るやうな家庭生活に於ける小仕事を成るべく幼児に手傳はせるのであります。幼児に手傳はせることによつて保母や人人の手數を省くのでありません。幼児にさせると却つて手數がか、りうまく出来ないのであります。幼児の生活内容を豊富になすためにわざ／＼行ふのであります。遊びのための遊びも勿論豊富でなくてはなりません。仕事を内容とせる遊び。役立つ作業といふことで幼少なときから勤勞の習慣をつけることは至極肝要なこととあります。教育を受ける程仕事がいやになつたり勤勞を厭ふ様になることは一般の傾向であります。必ず矯正せねばならぬ事柄であります。幼児が大人の手助をなすことは幼児自身に生活上重要な經驗をなさしめるもので何等苦痛でもなく好んで行ふ所でありませう。それが學校であるから本を読むのが本體であると誤解したり幼稚園であるから遊ぶだけのものであるといふ考は根本的に矯正せねばならぬ。生活内容を充實させるだけでも家事の手傳が甚だ必要であり幼少なときから役立つことをする勤勞の良習慣を養成するには至極好適なこととあります。この家庭生活を幼稚園に於て行は

しめること。幼稚園の作業に家庭生活上の材料を取入れて幼児をして應分の勤勞をさせてゐることはこのペスタロチーフレーベルハウスの一特色といつてもよいと思ひます。この點は我が國の幼稚園などにも大に考慮すべきことではないかと思ふのであります。保育室の整理整頓でもまた掃除などでも至極よい作業と思はれます。尤も身心の發達が幼稚なものに行はしむる作業は特に衛生に留意し、折角の作業が悪結果を招致するが如きことのないやうに十分警戒せねばなりません。しかし自分等が使つた玩具や積木などをその儘に取散して置いて保姆に整頓させたりすることは至極面白くないことであります。幼児が幼児の生活をなす間に起る必要な作業は成るべく幼児をして出来るだけ行はしめねばなりません。我が國の幼稚園でこれ程のことが分らない道理はないのであります。兎角幼児の生活からかゝる作業を取上げて保姆や大人が執行ふといふ弊が多いと思ひます。どうしてももつと幼児のために幼児の行ひ得る家庭の生活作業を幼稚園の生活に於ても十分行はしめるやうに材料を選択することが大切であります。

口繪の(三)はペスタロチーフレーベルハウスのある廣い庭、白樺やとちの木等が茂つてゐる森の下にある砂場に於ける幼児の遊びであります。保姆並に保姆實習生の多いことが一特色であります。保姆や保姆實習生が多いと兎角幼児の行ふべき作業を奪ふ心配がありますが、この幼稚園では餘程注意してゐるやうであります。保姆や保姆實習生は幼児の監督をしてゐますが幼児の活動すべき作業を奪つたり束縛

することを努めてさけてゐます。幼児の觀察をする機會を多くし幼児の研究をなすことに努力するのであります。

口繪の(四)は幼稚園に於ける幼児の晝寢であります。至極簡單な寢臺の上に毛布をかけて休息させるのであります。朝早く目さめる子供達はどうしても晝寢をさせる必要がありますからそれを實施することは肝要であります。我が國の幼稚園の如く保育時間が短くては晝寢の時間を設けその設備をなすことは至極肝要であります。殊に夏の日などは出来るならば林間で十分な晝の休息をさせる工夫が誠に望ましいことであると思はれます。一體に獨逸の學校は學校衛生が進歩してゐるので幼稚園や學校に於て傳染病に感染することがないやうな特別な注意を拂つてゐるのであります。晝臺でも寢具でもまだ幼兒の使用品等もそれ／＼區別し消毒すべきものは消毒して幼兒の身體發育を阻害することを絶対にさける工夫をしてゐます。これは我が國幼稚園で特に注意し適當な施設を講ぜねばならぬ點かと思はれます。唱歌の數が多いとか遊戯を多く教へたとか上手だとかを大問題として、幼兒が發育を阻害せられることの如何に多いかに無頓着なのは甚だ面白くないことであると思はれます。

このペスタロチーフレーベルハウスの事業は幼稚園が主要なものでありますが、更にいろ／＼の事業が附加せられてゐます。ユーゲンドホルトと稱し、六歳より十四歳までの兒童を學校時間外このハウスに收容していろ／＼の作業をさせます。大體午后一時になれば學校がひけるのでありますから午后の時

間を有益に消費させるため百人の児童を收容するユーゲンドホルトがあります。また郊外に幼児を收容する所もありますが、更に保母養成所があります。

二、ベルリンのワイゼンハウス

ベルリンのアルテヤコブストラーセにあるワイゼンハウスは實に廣大なものであります。大戦後獨逸は著しく子供の数が減少したのでありますが一方所謂孤兒が相當に増加したのであります。既に述べた如く孤兒と稱するも父親が不明だといふだけで母親があります。母親の手で幼児を育てることが出来ませんからこのワイゼンハウスに預けるのであります。ワイゼンハウスでは母親が育てることの出来ない子供を引とつてベルリン市で之を養育するのであります。我が國と異り歐米各國には孤兒院と養老院とは至極大規模で都市や國家で養育し收容してゐるのであります。養老院は我が國の如き家族制度でないから親は子を育てないことが多いと同様に子を養はないのが普通であります。子供が成年に達すれば自活して親の世話にならないから親はまた子供に扶養せられることが出来ません。身體が健康で働くことが出来て収入が多く資産があれば自活することが出来るが、左もないものは國家や都市の厄介にならねばなりません。それを收容するのが養老院で我が國の養老院とは餘程違つてゐます。子供も孫もまた身寄りのものもないものだけが養老院に入るのは當然であります。子供は堂々たる贅澤三味の生活をして

ゐてもその親が養老院に伸吟してゐるものが誠に多いといつた有様であります。それでワイゼンハウスも母親はありますが生活のためにその子供の面倒を見ることが出来ぬ、養育することが出来ないのてワイゼンハウスに預けるといふのでありますからワイゼンハウスが立派で廣大なのは當然であります。このベルリンのワイゼンハウスにはドクターの人々が多くゐて幼児の研究をしてゐるのであります。母親は一月に二回の面會日にか來ないのでありますから是等の幼児は悉く研究の材料となる譯であります。栄養の研究などもこのワイゼンハウスで行はれることが多いのであります。私を案内したドクターは説明してこの嬰兒は普通のミルクで育てゝゐるもの、これはバタミルクで育てゝゐるものである。バタミルクの方の發育カーブはこんな優良なることを示してゐると説明してゐるから丁度モルモットや白鼠などでヴァイタミンA B等の實驗をしてゐるのと異りません。日本でかゝる研究をなせば人道問題として大問題をも惹起し想てありますがベルリンでは甚だ呑氣であります。既に我が子を預けて養育して貰つてゐる母親であるからそんなことに頓着しません。學術研究材料となることであるからそれをかれこれいふやうな野暮なものがないと見えます。

一人のシュヴァイスターが十人位の嬰兒を支持つて養育してゐます。三ヶ月四ヶ月五ヶ月等と年齢で分類した幼児がそれ／＼籠寢臺の中にねかしてあります。この籠寢臺は乳母車同様で下にゴム車がついてゐますからどこにでも運ぶことが出来ます。毎日日光浴をさせるときには硝子天井の日當りよきところ

へ嬰兒も幼兒も籠寢臺で行列してゐる有様は誠に見事な位であります。全く口向に出したり日蔭に入れたり、何時と何時にバタミルク幾瓦與へるといふ具合で至極器械的に養育してゐます。科學的育兒法ではありますが一寸人情味がないやうに思はれます。私はこの有様を見たときこれは人工養育で先づ雞卵孵化法と大差がないやうに感じたのであります。

このワイゼンハウスにある幼稚園は一通りよく設備してあります。いろ／＼の玩具もあり水族器などもあります。ワイゼンハウスの幼稚園程あつて幼兒の意地のきたないにはあきれられる位であります。私のポケットに手をつき込んで紙を引出したり、萬年筆を出したりしてそれをくれといつて始末に困る位であります。保母が叱るけれども容易にきゝ入れません。このワイゼンハウスの後が小公園となつてゐて孤兒達が遊ぶに都合よく出來てゐます。砂場もありブランコもあるといつた有様で幼兒のみならず十五六歳までの子供が遊んでゐます。このワイゼンハウスで成長したものはベルリン郊外のリヒテンベルグのリンドルフにあるエルチーフングハイムで職業教育を受けて自活し得るまでに教育せられるのであります。エルチーフングハイムは郊外にある寄宿舎中心の教育所であります。一切の仕事を生徒交代で行つて自營してゐる寄宿舎でこのテレクトルは自らファーターといつてゐます。父なき子供等が寄宿舎生活をなして學科の教授もまた實習もやつてゐます。實習はそれ／＼専門的に修練するのであります。木工、金工、靴工、印刷、寫眞、織物、裁縫等一藝を以て身を立てるのであります。このエルチー

フングハイムは誠に模範とすべき寄宿舎生活。郊外でベルリン市と殆ど没交渉でありますから寄宿舎中に娛樂機關も充分設備せられ殆ど家庭生活と異らぬやうになつてゐる。監獄なり刑務所は特に娛樂を奪つて苦痛を感じしむる工夫をしてゐるのでありませうが、日本の寄宿舎が從來あまり無味乾燥な寄宿所の觀があつたのでこのエルチーフングハイムなどを模範として改善せねばならぬといふやうな感を抱きました。親の膝下を離れて寄宿生活をなすものには寄宿舎は暖味の多い愉快な生活所ではなくてはなりません。寄宿舎こそは眞の教育場ではなくてはなりません。

三、ルユチエルストラーセの幼稚園

これは國民學校に附屬せる幼稚園であります。ベルリンの北郊ルユチエルストラーセの女子の國民學校は作業主義の教育を實施してゐます。この學校長は我が國の風俗を表現せる繪畫や寫眞を多く集めてゐる男であります。この學校をこれまで五六人位の日本人が參觀した様にいつてゐます。私もその一人となりましたがこの國民學校に幼稚園が一組あります。十五六人の貧弱な幼兒が米のかゆの如きもの、多分オートとライスとの混合したものでありませうがそれに砂糖をかけてたべてゐます。朝早くから午後五時まで幼児を預かる托兒所式の幼稚園でありやす。教が國では幼稚園は教育をする所で小學校の準備をなすのであるが、托兒所は幼児を預つて置く所で教育を施す所でないなどと考へてゐる人があります。しかし幼稚園でも托兒所でも幼児を收容してゐる以上出来るだけ幼兒の身心の發育を助長し將來

小學校教育を受けるに適當な準備をなすべきことは同様で別に大差ある譯ではありません。このベルリンのルチエルストラーセの幼稚園は托兒所であり幼稚園であります。保育室が一つあつて隣室が臺所でもあります。幼兒に晝食を與へることが出來、ミルクを暖め茶を出すことが出来るやうにガス竈が一臺あります。丁度幼兒が食つてゐるライスブツデングの如きものはこゝでつくつたものであります。臺所の隣が便所でありうがひする所にもなつてゐます。うがひするコップも揚技も幼兒各自に一揃づ、あります。各自のものは花や器物や動物で示してあることは他の幼稚園などと同様であります。

四、エベルスワルダーのルフトシユレー

ベルリンの北郊エベルスワルダーストラーセにはベルリン市の運動場があります。廣い野原といつてよい芝生が見渡す限りつゞいてゐる一角にルフトシユレーがあります。これは幼稚園ではありませんがベルリン市の病弱兒童を收容してゐる特殊學校であります。幼稚園時代の幼兒では通ふことが出來ず收容することも困難でありますから主として小學校時代の兒童を入學させてゐます。

廣い芝生にバラックの建物かとびく／＼に立つてゐます。この建物も多くは吹さらして只屋根だけあるといつた方が適切であります。收容してゐる生徒數は二百五十人ばかり、腺病その他の疾病をもつた男女兒を收容してゐます。一日交替で男女兒に學料の教授をするのでありますが學科の授業も露天で行ふのであります。雨天のときにはバラックの屋根下で行ふやうになつてゐますが出来るだけ新鮮な空氣で

日光浴をさせることを多くする工夫であります。私が參觀したのは十月中旬のことと甚だ寒いのであります。南側が全く打開いた室で男児が體操をしてゐます。一部の生徒は毛布にくるまりいろ／＼の遊びをしてゐますが、體操を一生懸命に行つてゐる兒童はシャツとサルマタだけであります。體操の教師は外套を着てゐますから甚だ寒いことは明白であります。生徒は殆ど裸體で療養體操をやる譯であります。注意して見ると足の悪い十七八歳の男児もありませんが腺病梅毒皮膚病せむし等結核性傳染病の兒童ばかりであります。皆な親から遺傳又は傳染した不幸の病弱兒でありますから一生懸命に寒風に曝されて體操してゐる有様は實に悲慘な位であります。また一方には幼兒が遊ぶ砂場が二ヶ所もあり芝生の上で日光浴をする設備も整つてゐます。私の參觀したのは十月であり雨天でありましたから芝生で日光浴をする所は見られませんでした。が北緯五十二度のベルリン、夏ても日射量が少いから普通の人でも皮膚病にかゝり易く皮膚の弱いものが多いから日光浴を奨励するのは當然であります。こゝに收容してゐる病弱兒には一層日光浴空氣浴が必要であります。學校園も廣く生徒が馬鈴薯にんじんや草花を栽培することが出来るやうになつてゐます。新鮮な空氣充分なる日光に浴しつゝ作業させることが如何にも優良なる自然療法であるからであります。兎に角この學校は毎日午前九時より午後五時まで日光浴をなし空氣浴をなし一日交替に學習するやうになつてゐます。それで食堂もあり携帶品を置く場所もあります。特に注意すべきは傳染するものは専門の學校醫及び學校看護婦がゐて治療するやうになつてゐること

あります。それで電氣浴をさせる立派な室があります。腹に電氣浴をさせてゐる女の兒、顔面一杯に電氣浴をさせてゐるもの等いろいろの局部に電氣浴をさせてゐます。かくて傳染性を失つたものは他の生徒と共に日光浴空氣浴をさせて健康の回復増進をはかる譯になつてゐます。このルフトシューレーは有名なものでライチブツヒ等から特に専門醫がわざわざ參觀に來てゐる位であります。

さて我が國にも多くの病弱な幼兒や兒童が多いのであります。かゝる不幸な幼兒兒童を十分に保護する設備が必要であります。かゝる不幸兒の多くは貧と弱とを兼ねたもので自然の儘に放任せられることは人道主義からばかりでなく國家社會政策からいつても寒心に堪えない結果を招致するのであります。それで我が國でもそれ／＼適切なる施設をなす／＼あるのであります。成るべく幼少な時代から實施して未發に防ぐ工夫が肝要であると思はれます。幼稚園時代小學校低學年時代に十分なる施設を講ずることが最も効果大なる事業であると思ふのであります。幼稚園教育者がかゝることは社會事業であると疎外したり、社會事業に關與する人々は單なる社會事業となさず充分教育的に考慮し教育者と相提携して完全を期すべきものであると思ふのであります。更に一步をすすめるならば我が國に於ける内務省の社會事業と文部省の所管する社會教育事業とは密接な提携をなし共同作業となつて實施せられねばならぬのではないかと思ふのであります。今日でもこの點について當局者は十分努力せられてゐるに相違ないが、しかし兩々相對立して統一せぬ場合も少くないのは遺憾であります。また幼稚園は文部省の監督托

兒所は内務省の實施する社會事業といつた考て相對立することも面白くない現象であると思ふのであります。些細な事項に勢力争ひや所管争をして折角の事業施設の成果を滅殺するが如きは誠に面白くない現象であるやうに思ふのであります。

更に凡ての教育事業は環境に適應した施設をなすことが肝要と考へられます。ヨーロッパ諸國で實施して效果多き方策でもその儘模倣して我が國で適用することは面白くないと思ふのであります。日光浴でもベルリンやストックホルムなどでは非常に肝要でありますが我が國の夏は日覆がなくば暑くて困る甚だしきは疾病にかゝるといふ時期には獨逸などの日光浴を眞似することは出来ません。さりとて室内作業を課するのが學校の主要な課程、幼稚園唯一の保育法となすことは尙更によくはない方法と思はれます。今日我が國の幼稚園などでは天候の許す限り室外で幼兒を遊ばせる工夫が肝要でありませう。遊戯といへば樂器の關係で遊戯室、しかも塵埃の多い室内で幼兒の自由活動を束縛したやうな動作を強制してゐるなどは以ての外であると思はれます。日光が強くて困るならば日蔭を選んでそこで幼兒達が思ふ存分、新鮮な空氣を呼吸しつゝ思ふ存分に遊んだり動作してこそ幼稚園の遊戯が使命を達するものであると思ふのであります。幼稚園には思切つて露天生活をさせる施設をなし新鮮なる空氣に浴しつゝ幼兒の生活を充實させる工夫が必要であります。私は今日の幼稚園があまりに幼兒の自然生活から遠ざかつた施設をなし不健全な室内生活をなさしむる學校教育を模倣し過ぎてゐるやうな感を抱いてゐるの

てあります。

五、セネフェルダーストラレーセの學校幼稚園

ベルリンのセネフェルダーストラレーセの二八九番國民學校にシュールキンダーガルテンと稱し、學校幼稚園とも直譯すべきものがあります。學校幼稚園といふ名稱は一寸變てありますが名實相伴つたものであることが參觀して分りました。幼兒は三十人男女兒の混合であること勿論であります。年齢は滿六歳より八歳まで。普通ならば國民學校に入學すべき所をこの幼稚園に入學するのであります。低能的な薄弱兒童で普通の兒童よりも發音のおくれたものがこの學校幼稚園に入るのでありますから低能兒學級とか特別學級とかいふべきものであります。特にシュールキンダーガルテンと稱する所が獨逸式であります。國民學校の幼稚園であります。この幼稚園からヘルフスシュューレーに入學するのであります。ヘルフスシュューレーは補助學校で國民學校に入らぬ低能兒を收容して義務教育を施すのであります。兎に角この學校幼稚園は幼稚園式に低學年の教育を施す精神のもので、私の參觀した日には兒童が二十七人出席してゐました。教室内の温度は二十度でありますから暖い。教室は小學校と大差ありませんが窓枠のところには水槽があり鉢植があります。低い机を二脚組合せたり一脚のまゝのところもありして三人から五人位の分圍となつてゐます。保姆一人助手一人であります。十七人の兒童には黑板に色チョークで書いた落葉の畫を見てかゝせてゐます。八人は馬、家、柵、木、鳥などの厚紙で作つたもので單語の練習

をなさしめてゐます。途中からサイコロを出して數と結付けてゐます。二人は積木遊びであります。が殆ど手を下しません。助手が骨折つてはめ繪をさせるのでありますが兒童は全く活動しません。こんな工合で一齊教授を行はず遊びの間に必要な低學年の教育を施すのがこの學校幼稚園の有様であります。作業の始と終りに唱歌を歌はせ手をつなぎなどしてゐるのであります。國民學校と區別せられ保育室の隣が遊戲室、その隣が雨具戸棚、齒磨楊枝、爪みがき等をかける所、一方にガス七輪があります。かく三室で學校幼稚園となつてゐます。設備は十分でありませんが三十人の兒童に保母一人助手一人はさすが考へてゐます。我が國の幼稚園の如く四十人も五十人も一人の保母に受持たせるが如き無鐵砲なことがないのであります。



我が園に於ける群團テストの實際

東京市番町尋常小學校附屬幼稚園

幼稚園に於ての様々な生活を通して、幼兒各々の性情の傾向、知能の發達狀況は或程度まで知る事が出来ませんが、更に學者の研究と論旨に従て私共の及ばざるを發見し又日常の經驗を確實にするといふ事は望ましい事でありませう。けれどテストをするといふ事が、あの元氣な打込んだ幼兒の生活に、何か異状なギョチナイ感じを與へはしないか。さういふ事なしに、楽しんで出来る方法を求めて居た際、麴町區兒童相談所の國澤先生から三木知一氏の一般素質検査法に就ての説明をうかがひ、私共の望に叶ふ様思はれましたので、「學校遊び」を機會に、國澤先生の指導に依て、これを實施致しましたのは大正十五年の十二月であります。其記録は左の通りです。

- 一、検査施行時及天候……大正十五年十二月 三日晴 六日曇 午前十時から十時半まで
- 二、被検査幼兒……七〇名（六歳 男二三 女一七 五歳 男十七 女一三）
- 三、一般素質検査幼稚園用紙（三木知一氏考案）使用

四、検査實行上の注意は大體三木氏著「素質検査の實際」に依る

イ、机一脚に一人宛着席させ、なるべく間隔をおく。

ロ、一團の人数は二十名以下とす。

ハ、検査時間は毎日一時刻に行ひ、十五問題中「第八」までを第一日に以下を第二日に行ひ第一日と第二日との間に三日間を置く。

ニ、時間は、ストップウォッチを用ふ。

ホ、検査用紙を渡す前に「口を閉ること」「お友達の見ないこと」「検者がお開きなさいといふまでは紙を開けないこと」の約束をする。

ヘ、検査用紙には豫め児童の姓名を記入し置く。

ト、検査者も手許に一部用意して検査の教示の用にする。

チ、約束を終り、検査用紙の配布を終つた後鉛筆を渡す。

かくして實施の結果は、幼兒の興味と熱心なことは意外な程で、「まだ學校ごっこしないのし」と待遠しがる者さへありました。そして個人テストから來る一種の被試験心といふものは少しも見られませんでしたが。ただ、個人生活から團體生活への道程にある満三歳の幼兒が、この群團テストに入り得なかつたのは當然で、衆團生活の興味を持ち得るようになった五、六、歳兒に於ては無理のないばかりでなく却て喜び迎へられました。

これに依り、幼児各々の知能發達と其分配狀況を知ると同時に、結果整理の後左の數項を得ました。

1 一般知能の年齢的傾向及性別比較

年齢	性別	人数	得點合計	平均
5	男	17	1040.0	61.2
	女	13	786.5	60.5
	合併	30	1826.5	60.9
6	男	23	1480.5	64.4
	女	17	1193.5	70.5
	合併	40	2679.0	66.9

男女共年齢の進歩と共に一般知能も上昇の傾向を示して居り、五歳兒に於ては男兒が女兒に優れて居るが、六歳兒に於ては女兒が男兒に對して遙に優れて居ります。

けれどこれは必ずしも此期の女兒が男兒よりも急激に進歩するといふ事は云へません。更に多數の被檢者に就ての調査を必要とします。

2 一般知能分配狀況(各知能の得點合計を一般知能點とす)

大體齡の進歩と共に其最頻數の分段が上昇して居ります。更に男女に就て見ますと、五、六歳兒共に女兒の方が最頻數分段に於て男兒に優れて居ります。此時期には知能發達に於て女兒が男兒よりも優れて居ると見るが至當のようであります。けれども精密には尙ほ更に多くの被檢者に就ての調査を要します。

年齢 點數	5			6		
	性別		合併	性別		合併
	男	女		男	女	
80—86	1	0	1	0	2	2
70—79	3	1	4	8	8	16
60—69	4	8	12	9	6	15
50—59	7	1	8	4	1	5
40—49	2	1	3	2	0	2
30—39	0	2	23	0	0	0
合計人数	17	13	30	23	17	40

(得點滿點86)

3 性別年齢別に依る各知能分配狀況

各知能分配狀況年齡別表

五才兒 (三十名)

問 題	5	4	3	2	1	0	點 數	備 考				
1 理解力 I	26	2	0	1	1	0	人 員	問題1、2、3、4、6、7、9、10、11、12、13、14、15、問題八十點滿點ニシテアル。				
2 觀察力 I	4	11	6	5	1	3						
3 記憶力 I	13	7	5	3	2	0						
4 順應力	14	6	2	3	4	1						
5 理解力 II	615.5	514.5	413.5	312.5	211.5	110	點 數					
	1 2	2 2	2 2	4 9	4 1	1 0	人 員					
6 記憶力 II	20	5	2	2	0	1						
7 量的判斷力	9	9	5	1	4	2	點 數					
8 統覺力	10	9	8	7	6	5			4	3	2	1
	0	4	4	4	4	3	2		2	1	1	
9 分類力	16	6		0	4	0	人 員					
10 美醜判斷力	17	8		2	0	0						
11 視覺辨別力	1	4	10	8	6	1						
12 觀念內容力	26	4		0	0	0						
13 加算力	13	5	4	6	2	0						
14 命令實行力	17	7		2	1	1						
15 技巧力	10	9	8	7	6	5		4	3	2	1	0
	2	3	5	0	6	0	4	4	2	1	3	人 員

各知能分配狀況年齡別表

天才兒 (四十名)

問 題	5	4	3	2	1	0	點 數	備 考				
1 理解力 I	33	4		0	0	0	人 員	リテ問題3、4、15、6、7、9、10、11、12、13、14問題五ハ六點滿點ニシ				
2 觀察力 I	7	14		7	3	3						
3 記憶力 I	16	17		3	1	1						
4 順應力	19	8		3	3	1						
5 理解力 II	615.5	514.5	413.5	312.5	211.5	110	點 數					
	1 3	1 0		8 4	7 2	0 0	人 員					
6 記憶力 II	31	8		0	0	0						
7 量的判斷力	28	5		2	2	0	點 數					
8 統覺力	10	9	8	7	6	5			4	3	2	1
	2	6	9	11	8	5	2		2	0	0	
9 分類力	19	9		3	2	1	人 員					
10 美醜判斷力	22	8		2	0	0						
11 視覺辨別力	2	14		4	3	1						
12 觀念內容力	40	0		0	0	0						
13 加算力	21	9		4	2	0						
14 命令實行力	23	11		3	0	0						
15 技巧力	10	9	8	7	6	5		4	3	2	1	0
	6	11	6	3	2	6	3	0	3	0	0	人 員

各知能分配狀況性別年齡別表

五才男兒(十七名)

問 題	5	4	3	2	1	0	點 數	備 考
1 理解力 I	15	2	0	0	0	0	人 員	問題1、2、3、4、6、7、9、10、11、13、14ハ五點 問題5ハ六點 問題8、15ハ十點 問題12、13、14ハ六點 問題1、2、3、4、6、7、9、10、11、13、14ハ五點 問題5ハ六點
2 觀察力 I	3	7	4	0	1	2		
3 記憶力 I	7	4	2	2	2	0		
4 順應力	6	4	2	2	3	0		
5 理解力 II	6 5.5	5 4.5	4 3.5	3 2.5	2 1.5	1 0	點 數	
	1 1	1 0	1 2	2 6	3 0	0 0	人 員	
6 記憶力 II	11	4	1	1	0	0		
7 量的判斷力	4	7	3	1	1	1	人 員	
8 統覺力	10 9	8 7	6 5	4 3	2 1	0		
	0 2	1 4	4 2	2 1	1 1	0	人 員	
9 分類力	10	3	3	0	1	0		
10 美醜判斷力	10	4	1	2	0	0		
11 視覺辨別力	0	3	5	4	4	1		
12 觀念內容力	14	3	0	0	0	0		
13 加算力	8	2	3	2	2	0		
14 命令實行力	11	4	0	1	1	0		
15 技巧力	10 9	8 7	6 5	4 3	2 1	0		點 數
	1 1	3 0	5 0	2 1	0 1	3 3	人 員	

各知能分配狀況性別年齡別表

五才女兒(十三名)

問 題	5	4	3	2	1	0	點 數	備 考
1 理解力 I	11	0	0	1	1	0	人 員	問題1、2、3、4、6、7、9、10、11、12、13、14ハ五點 問題5ハ六點 問題8、15ハ十點 問題1、2、3、4、6、7、9、10、11、12、13、14ハ五點 問題5ハ六點
2 觀察力 I	1	4	2	5	0	1		
3 記憶力 I	6	3	3	1	0	0		
4 順應力	8	2	0	1	1	1		
5 理解力 II	6 5.5	5 4.5	4 3.5	3 2.5	2 1.5	1 0	點 數	
	0 1	1 2	1 0	2 3	1 1	1 0	人 員	
6 記憶力 II	9	1	1	1	0	1		
7 量的判斷力	5	2	2	0	3	1	人 員	
8 統覺力	10 9	8 7	6 5	4 3	2 1	1		
	0 2	3 0	2 2	1 1	1 1	1	人 員	
9 分類力	6	3	1	0	3	0		
10 美醜判斷力	7	4	2	0	0	0		
11 視覺辨別力	1	1	5	4	2	0		
12 觀念內容力	12	1	0	0	0	0		
13 加算力	5	3	1	4	0	0		
14 命令實行力	6	3	2	1	0	1		
15 技巧力	10 9	8 7	6 5	4 3	2 1	0		點 數
	1 2	2 0	1 0	2 3	2 0	0 0	人 員	

各知能分配狀況性別年齡別表

六才男兒(二十三名)

問 題	5	4	3	2	1	0	點 數	備 考
1 理解力 I	19	2	2	0	0	0	人	點點問題 滿滿點 點點ナリ。 問題1、2、3、4、6、7、9、10、11、12、13、14、15、ハ、ハ五
2 觀察力 I	3	7	3	4	3	3		
3 記憶力 I	8	9	2	3	0	1		
4 順 應 力	7	6	5	3	2	1		
5 理解力 II	6 5.5	5 4.5	4 3.5	3 2.5	2 1.5	1 0	點 數	
	1 1	1 0	4 4	3 4	3 2	0 0	人 員	
6 記憶力 II	16	6	1	0	0	0		
7 量的判斷力	17	2	2	1	1	0	點 數	
8 統 覺 力	10 9	8 7	6 5	4 3	2 1	0 0		
	0 2	6 7	3 3	1 1	0 0	0 0		
9 分類力	11	6	3	1	1	1	人 員	
10 美醜判斷力	14	4	4	1	0	0		
11 視覺辨別力	2	4	9	4	3	1		
11 觀念內容力	23	0	0	0	0	0		
11 加 算 力	9	6	2	4	2	0		
11 命令實行力	12	7	1	3	0	0		
15 技巧力	10 9	8 7	6 5	4 3	2 1	0 0		點 數
	1 4	2 2	1 5	2 0	3 0	0 0	人 員	

各知能分配狀況性別年齡別表

六才女兒(十七名)

問 題	5	4	3	2	1	0	點 數	備 考
1 理解力 I	14	2	1	0	0	0	人	點點問題 滿滿點 點點ナリ。 問題1、2、3、4、6、7、9、10、11、12、13、14、15、ハ、ハ五
2 觀察力 I	4	7	3	3	0	0		
3 記憶力 I	8	3	0	0	1	0		
4 順 應 力	12	2	3	1	1	0		
5 理解力 II	6 5.5	5 4.5	4 3.5	3 2.5	2 1.5	1 0	點 數	
	0 2	0 0	3 4	1 3	4 0	0 0	人 員	
6 記憶力 II	15	2	0	0	0	0		
7 量的判斷力	11	3	1	1	1	0	點 數	
8 統 覺 力	10 9	8 7	6 5	4 3	2 1	0 0		
	2 4	3 4	0 0	2 1	1 1	1 0		
9 分類力	8	3	3	2	1	0	人 員	
10 美醜判斷力	8	4	4	1	0	0		
11 視覺辨別力	0	10	7	0	0	0		
12 觀念內容力	17	0	0	0	0	0		
13 加 算 力	12	3	2	0	0	0		
14 命令實行力	11	4	2	0	0	0		
15 技巧力	10 9	8 7	6 5	4 3	2 1	0 0		點 數
	2 7	4 4	1 1	1 1	0 0	0 0	人 員	

各問題年齢別性別平均點及平均錯差表

問題番號	年 齡	性 別	人 數	平均點	平均錯差	比 較
1 理解力ノ一	五 歲	男	17	4.9	± 0.2	男>女
		女	13	4.5	± 0.9	
		合併	30	4.7	± 0.5	
	六 歲	男	23	4.5	± 0.5	男<女
		女	17	4.6	± 0.4	
		合併	40	4.5	± 0.43	
2 觀察力	五 歲	男	17	3.3	+ 1.2	男>女
		女	13	2.8	± 1.1	
		合併	30	3.1	± 1.1	
	六 歲	男	23	2.8	± 1.4	男<女
		女	17	3.6	± 0.9	
		合併	40	3.2	± 1.2	
3 記憶力ノ一	五 歲	男	17	3.7	± 1.2	男<女
		女	13	4.1	± 0.8	
		合併	30	3.9	± 0.99	
	六 歲	男	23	3.8	± 0.9	男>女
		女	17	4.3	± 6.7	
		合併	40	4.1	± 3.8	
4 順應力	五 歲	男	17	4.5	± 0.7	男>女
		女	13	4.2	± 1.2	
		合併	40	4.4	± 1.2	
	六 歲	男	23	4.7	± 0.5	男<女
		女	17	4.8	± 0.3	
		合併	40	4.8	± 0.4	
5 理解力ノ二	五 歲	男	17	3.5	± 1.2	男>女
		女	13	3.2	± 1.2	
		合併	30	3.4	± 1.2	
	六 歲	男	23	3.2	± 0.9	男<女
		女	17	3.3	± 0.9	
		合併	40	3.3	± 0.9	
6 記憶力ノ二	五 歲	男	17	3.5	± 1.3	男<女
		女	13	3.9	± 1.7	
		合併	23	3.7	± 1.2	
	六 歲	男	23	3.0	± 1.2	男<女
		女	17	4.4	± 0.9	
		合併	40	3.95	± 1.1	
7 量的判斷力	五 歲	男	17	3.5	± 0.9	男>女
		女	13	3.2	± 1.6	
		合併	30	3.4	± 1.3	
	六 歲	男	23	4.4	± 0.9	男>女
		女	17	4.3	± 0.9	
		合併	40	4.4	± 0.9	

4 各問題年齢別性別平均點及平均錯差による比較

被檢幼兒數の少數である爲めこの表によつて知能分配狀況に殆んど何等の結論をも下す事も出来ませんが一事實として參考までにここにあげます。

問題番號	年齢	性別	人数	平均	平均錯差	比較
8 統 覺 力	五 歳	男	17	5.3	± 1.50	男>女
		女	13	5.7	± 2.18	
		合併	30	5.8	± 1.81	
	六 歳	男	23	6.7	± 1.32	男<女
		女	17	7.4	± 1.59	
		合併	40	7.0	± 1.35	
9 分 類 力	五 歳	男	17	4.2	± 1.9	男>女
		女	13	3.7	± 1.3	
		合併	30	3.95	± 1.1	
	六 歳	男	23	4.0	± 1.0	男>女
		女	17	3.9	± 1.1	
		合併	40	4.0	± 1.1	
10 美 醜 判 断 力	五 歳	男	17	4.3	± 0.8	男<女
		女	13	3.3	± 0.7	
		合併	30	4.4	± 0.8	
	六 歳	男	23	4.5	± 0.7	男>女
		女	17	4.1	± 0.8	
		合併	40	4.2	± 0.8	
11 視 覺 辨 別 力	五 歳	男	17	2.3	± 1.0	男<女
		女	13	2.6	± 1.9	
		合併	30	2.5	± 1.4	
	六 歳	男	23	2.8	± 1.0	男<女
		女	17	3.7	± 0.4	
		合併	40	3.3	± 0.7	
12 観 念 内 容	五 歳	男	17	4.8	± 0.3	男>女
		女	13	4.2	± 0.8	
		合併	30	4.6	± 0.06	
	六 歳	男	23	5.0	± 0.00	男=女
		女	17	5.0	± 0.00	
		合併	40	5.0	± 0.00	
13 加 算 力	五 歳	男	17	3.7	± 1.1	男=女
		女	13	3.7	± 1.1	
		合併	30	3.7	± 1.2	
	六 歳	男	23	3.6	± 1.2	男<女
		女	17	4.0	± 5.1	
		合併	40	3.8	± 3.2	
14 命 令 實 行 力	五 歳	男	17	4.4	± 0.8	男>女
		女	13	4.0	± 1.1	
		合併	30	4.2	± 1.0	
	六 歳	男	23	4.3	± 0.8	男<女
		女	17	4.6	± 0.7	
		合併	40	4.5	± 0.8	
15 技 巧 力	五 歳	男	17	5.0	± 3.18	男<女
		女	13	5.5	± 2.65	
		合併	30	5.2	± 2.13	
	六 歳	男	23	6.6	± 2.37	男<女
		女	17	8.1	± 1.23	
		合併	40	7.2	± 2.07	

この表の結果を一般幼児にあてはめる事は、前表と同じ理由の下に許されな^いことと思ひますが、一
 記録として此處にあげます、精確な結論は更に多くの人員に對しての調査にまつ外はありません。たゞ
 私達のこの小さな努力が將來この方面を研究さるる方に何等か貢献する所があれば幸に思ひます。



性質の生物學的考察

哲 化 人

教育の對象であるところの精神的及び身體的性質を生物學的方面から觀るのも亦面白い事でありませう。

生物の性質は根本的に異つてゐる二種類のものにわけられます。一方は先天的性質、他方は後天的性質と云ひます。先天的性質の原因は内部的で、後天的のは外部的であつて、時期の差といふ意味ではありませんから、或はこの名稱は不適かも知れません。

先天的性質とはどんなものか、どうして生ずるかと申しますと、この性質を生物が有することの原因はその細胞の内部にあります。細胞は御承知の通り生物組織の最小單位であつて、細胞膜及び細胞質よりなり、細胞質は原形質、色素體及び核によつて出來てゐます。その核は各細胞には必ず（僅な例外はあるが）一個あつて、これなくては、生活する事を得ないのです。その中に或る染料によつて着色し得る物質があつて、それを染色體と呼びます。實にこれが先天的性質の原因の存する所なので、強度の顯微鏡でなくては認め得ないこの染色體に、重要な意義のある先天的性質が原因してゐるとは面白い事て

はありますか。この染色體は細胞が分裂する前に分裂をしますがその時紐状になつて移動します。この紐の数はそれぞれその種に特有なものであつて、例を挙げますと、人は男四十七個、女四十八個であり、はつかぬずみは二十四個、くまねずみは十六個で、植物では、えんどうが十四、そめゆしのは十六、ダリヤが六十四個であります。この紐となつた染色體上には、先天的形質の原因である何かの物質——これは何であるかまだわかりませんが——が一定の順序になつて排列されてゐます。米國のコロンビア大學のモルガン教授はゾオロソフィラと云ふ酢蠅の一種について長年研究された結果、ゾオロソフィラの四つの染色體の上の配列の順序を四百もの性質について明らかにされました。この性質の原因と云つてますものを遺傳學上因子(ファクタア又はゲーネ)と稱してゐます。先天的性質は遺傳する性質であります。それはその原因である各染色體中の因子が遺傳せられるからであります。この性質は決して一生涯變りませんし、外界の影響も大してこれを變更するわけには行きません。しかし、後天的にその素質を掩ひかくしてしまふ事は出来る性質もありはしませうが、やはり深く根本的になつてゐる先天的性質は變りません。ですから、生物の性質を根本的に決定してしまふのは先天的性質でこれの重大なことは後天的性質に比較になりません。具體的な例を挙げますと、ねずみの毛皮の色は先天的性質であります。遺傳しなすし、一生涯變化ありません。いくらカロチンだのキサントフィルだのを含んだ食物を與へても灰色のねずみは少しは黄色くなつても根本的に灰色ですから、その變化を生ぜしめてゐる原因

さへ消滅すれば直ちに元の状態に復します。この先天的性質であるか否かは可成複雑な検討を要します。遺傳するかしないかと云ふのは、外見上遺傳に見えてもそれが傳染だつたり又は哺乳類等は營養の關係であつたりして、眞の遺傳で、染色體中の因子に原因を有する性質であると云ふ事は仲々面倒な批判が要ります。ゾロソフイラでは四百の先天的性質、即ち遺傳性質を發見され、スキトビイ、金魚草、うさぎ、はつかねずみ、又日本で朝顔、たうがらし、かひこ等について遺傳的因子の發見に努力されてゐます。人についても少なからず研究されてゐるが、何分性質が複雑でその上産兒數も比較的少いため研究が困難で、勿論、實驗等は不可能であるから家系についての記録から調べられてゐます。精神的性質で天才の遺傳は詳しく研究されてゐるが、遺傳であると云ふ學者と、天才の親なら子を天才にする様に教育する。つまり天才は教育の結果なる後天的性質であるといふ學者とあるが、天才と云ふ性質は如何なるものであるかの解釋によつても異るでせう。しかし頭のいいかわるいか、つまり精神作用の敏か鈍かは遺傳する事は確かでせう。ダウキンの家系はよく天才の遺傳として引例されますが、五代のうち非凡なる大才能を有する科學者十六人を出しています。米國のリチャードエドワードはエリザベスタットルと云ふ婦人と結婚し、子孫千三百九十四人について、二九五人は大學卒業者、内六十五人は大學教授、六十人は醫師、六十人は文學者で、一家の刊行物百三十五種、定期刊行物十八種との事です。それと反對に精神的惡質も遺傳すると言はれてゐます。これも遺傳ではないと云ふ人もありますが、遺傳とみても

差支へないでせう。この例では、瑞典のゼロ家が擧げられます。その原因は浮浪人と放縦な婦人との結婚に始まり、無頼漢、精神薄弱者、殺人犯、重罪犯、白痴、賣笑婦等を出し、早逝するものは數知れぬ程ありました。紐育のジユウク家は五代間で千二百人の子孫がありますが、そのうち五百人だけ素性がわかつてゐますがそれは全部下層階級より上れなく三百人の天死者があります。これは一方その父母のつくる境遇のためだとも言へませうが、悪くなるべき素質の遺傳は拒めない事實であります。

肉體的性質では、種々の疾病が遺傳するのは研究されてゐますが、正常なものでも髪の毛の色、眼の色は明らかに遺傳し、皮膚の色も遺傳はするが如何なる因子か不明で、身長も體重も肥瘠も遺傳の事實はあつても目下くはしく判明してゐません。茶目の人と碧眼の人の子は茶目であります。この事實を茶目は碧眼に對して優性であると云ふ事は御承知の通りで孫の代にはメンデルの法則により茶目三碧眼一の割合に分離します、黒目も碧眼に對して優生です。黒髪は金髪に對し優性です。ちぢれ毛は眞直な毛に對し優性です。

次に疾病ですが遺傳すると決定したものの名稱を擧げませう。先天的内白障、瞳孔破裂、夜盲症(二種ある)血友病、短指症、多指症、指癒着症、骨質脆弱症等は優性で、神経病、硬化症、舞踏病、癱瘓症は劣性であります。

先天的形質を改良するのは後天的には不能であります。ですから優良なる先天的素質ある子供を作る

には優良なる先天的素質ある両親によらねばなりません。これで優生學が生じ、よき子供を社會にふやし、悪い素質を社會からなくさうと努力してゐます。先天的性質の改良は優生學によつてなされます。

さて今度は後天的性質ですが、これは先天的に非る性質と云ふ定義です。だから範圍も種類も限りがありません。

これを生ぜしめる原因は外界の刺戟であります。その外界の刺戟に應じて變化する性質は生物獨特のものので之を刺戟感應(イリタビリテイ)と云ひます。生物がいやしくも生きてゐるうちは之がありますから刺戟に應じて變化をします。外界の影響と云ひましても色々のものがあります、例へば棲息地、食物、氣候、外力、化學的刺戟、電氣等で變化します。又廣い範圍の意味の影響なら器管を使用するかしないかはその器管の發達に影響します。

之を具體的に例を挙げますと棲息地による變化はたんぼぼに見られます。春野邊に咲くのは大きいですが山間の岩の間から咲いてゐるのは葉も花もはるかに小形です。

又動物であれば、海の小島の獸は大陸のそれと比較して小形です。又その住所により色の異なる動物があります。

食物も影響は大です。松の葉で育た毛蟲が蝶になると赤いですが、樅の葉だと緑色がかつてしまふ蝶があります。

氣候は、溫度、光線、濕度等と分けられますが生物の型體及び成長の方に及ぼす影響は又大です。ア
カマダラ蝶では春型と夏型とがあつて、春出る蝶と夏のはちがひますがこれも氣候殊に溫度の影響が
原因してゐます。黄蝶にもさう云ふ現象があります。寒櫻草と云はれてゐる清らかな櫻草は——プリム
ラシネンシスと稱はれてゐますが——二十度以下ならば白い花が咲き三十度以上だと確實に赤い花が咲
くといふ事實がわかつてゐます。光線の影響も大て手近かな事實は吾々の皮膚が光線に當てられると紫
外線を防止するために黒色素を生じる現象、即ち日焦けは光線の影響であります。南洋の土人の皮膚の
黒いのは日焦けによる後天的性質のみではありません。先天的性質によるもので、吾々の皮膚の黄色な
のも同様であります。濕度も蛾に翅の色に護化を與へます。食物の影響の大なことは一寸考へただけ
も想像出來ますが、營養が充分でなければその種の達すべき大いさにまでは達しません。量の關係はさうですが質も必
つて充分以上あつてもその種の特有の大いさ以上には決してなりません。量の關係はさうですが質も必
要のものは缺くと病氣の徴候が表はれます。ウイタミンの缺乏症等はそれてあります。

或る特殊な器管を度々使用するかしなないかはその器管の發達の上に影響があります。ラマルクはその
名者「動物哲學」中にその變化の例を多く擧げてゐます。體育は筋肉を使用させる結果筋肉を發達させ
頭腦の使用は頭腦の發達を來します。聲樂家のいい聲も使用——即ち練習——の結果が大ですし、車夫
の脚の太いのも鍛冶屋の腕の太いのも使用の結果の發達です。この例はラマルクも云つてゐる通り無限

にあげられませう。

要するに、後天的性質は外界によつて生ぜしめられるものでありその原因が失はれば遅かれ早かれ元狀に恢復するものであります。この二つの種類の性質を比較してみると、先天的は後天的性質より根本的であつて、性質を改めることも容易でありませぬ。しかしそれもその性質によつて、一概にさうとはいへませぬ。切斷した足は、先天的不具と同じ様に再び生える事が出来ませぬ。精神的性質については、その先天性が今日では、はつきりしませんが、おそらく細かな才能まで遺傳はしないだらうと思はれます。

かくして後天的影響は精神的性質に對して大なる意義を持つております。こゝに教育の價值が認められる譯でありませぬ。

五月の幼児の生活

東京府女師附屬幼稚園

卜部 たみ

五月の主材。

○五月の節句

○遠足及戶外遊び

○五月の誕生會

○五月の庭園及其他

四月に種子蒔をした芽生えの培養

養蠶、鶏の卵の孵化及その飼育、渡り鳥について(燕)

昆蟲類及五月の花及草花

櫻、梨、桃の毛蟲

附。お辨當の樂しみ。

新入幼兒は入園後漸次希望の者から辨當を持つて來初め、本月初めから殆ど全部揃つて辨當を持つてくる様になる。

曜 週	一 第	二 第	三 第
1	<p>五月人形飾付 (雛段作り、人形運び飾り付等) 鯉段を立てる。 雛段の前にて五月人形にいつての談話(金太郎) 唱歌(金太郎) 遊戯(同上及其他) 自由畫(金太郎)</p>	<p>自由あそび 花壇の手入(草むしり、毛蟲退治) 五月人形についての談話(つづき) 千なりべうたんの話(同上(自由畫)) 唱歌、遊戯(金太郎、牛若丸其他) 節句の會の裝飾物製作(手技)</p>	<p>自由遊び 裝飾物製作(手技つづき) 唱歌遊戯 鯉幟(新授)及其他練習 五月人形に就ての話つづき 神武天皇の御話 自由遊び 毛蟲退治、蝶に菜をやる、集露の觀察(金魚、おたま)じやくし等の觀察。</p>
2	<p>昨日の話(自由談話) 自由遊び(まりなげ、籠まり)の觀察(標本) 同(同心町停留所前郵便局の軒) 燕の旅(談話) 燕(唱歌、遊戯) 自由遊び 自由畫及手技片付 五月人形片付</p>	<p>音羽護國寺行き(戶外保育)往 小學校門―大塚高師庭―窪町―仲町―護國寺 復 電車</p>	<p>自由繪、手技、談話の間に昨日の護國寺行きの發表及その整理。 唱歌、遊戯(燕、其他) 粘土、自由製作 (準備粘土の扱ひ、後始)(未備の注意)</p>
3	<p>自由遊び(同前) 往來の觀察(本校門前) 電車、自動車、荷車、人力車、行人、犬、牛、馬、商家、其他 自由畫及手技談話に發表 唱歌、遊戯(燕其他)</p>	<p>自由遊び 石拾ひ。 準備―標準の石、バケツ、トロッコ、目尺等 石拾―好みの場所について拾ふ。標準の石と比べて拾ひ、運搬。洗ふ。ふく。石ならへ。石積み、石やさんごっこ 唱歌、遊戯(同前)</p>	<p>自由遊び。 石ひろひつづき。 粘土(自由作) 談話(遠足) 唱歌、遊戯 燕、夕暮の唄、鯉幟、金太郎、ひばりはうたひ、鳩、牛若丸等</p>
4	<p>日曜のこと(談話) 幼児の自由發表 誕生會のおくりもの作り(繪、折紙、剪紙、貼紙) 唱歌、遊戯、 (昨日の仕度、おさらひ)</p>	<p>誕生會の準備(二組にならぶ) 誕生會 自由遊び 運動遊技 兎と龜、ガンガール、象、ボールオクリ、ボール投げ</p>	<p>自由遊び、砂場、土いぢり 土ほり、蟻さがし、蟻の(巢さがし、あふら蟲さがし) 花壇の手入(害蟲とり) 談話(やぎと蟻) 幼児談話 唱歌、遊戯(既授練習)</p>

曜 週	第 四	第 五	第 六
1	<p>自由遊び (同前) 毛蟲、蠶等觀察 五月人形に就ての話つづき 談話 (鐘起様、其他) 五月のお節句に就て (談話) 幼児の自由發表 お節句の町の觀察、 唱歌、遊戯 (鯉幟其他)</p>	<p>端午節句祝會 (遊戯室) 準備 (椅子はこび) 開會の辭、談話 (雀と鯉 幟其他) 唱歌、遊戯、本よみ、著 音機、開會の辭 小學校の節句の模様にみに いく 小運動會、幟くらべ其他 の催をみる。</p>	<p>昨日のお節句に就て (談話) (幼児の自由發表) 木馬遊び、シーソー、其他 自由遊び 小學校及本校内觀察。 蠶、金魚、鶏、毛蟲、 (根) おたまじやくし、 其他</p>
2	<p>燕のこと。 燕チイナブ (談話) 燕 (唱歌遊戯) 燕の塗繪、剪紙、折紙等。手 技 燕の觀察。 清水谷停留所前菓子店の 軒</p>	<p>花壇の世話 つゝじ、チヌウリツブ、ヒ ヤシンス、各自種蒔した 鉢の世話。 飼育動物の世話。 チヌウリツブ其他作り。 クレール、ペーパーにて造花 自由繪、塗繪等 自由遊び (ま) こと、其他) 唱歌、遊戯 (燕、其他)</p>	<p>自由遊び (砂遊び其他) 色合せ 音と聲のきくわけ遊び いもむしころく (唱歌、遊 戯) 兎と龜のかけく ら。カンガールとび 自由遊技 象、リレ</p>
3	<p>遠足 陸軍戸山學校</p>	<p>遠足についての自由談話 繪及手技其他に發表及その 整理。 唱歌 (既習のおさらひ) (午前中のみで保育終る)</p>	<p>花壇の手入 飼育動物の世話。 眞鶏觀察。 談話 (鶏と卵) 身體検査</p>
4	<p>自由遊び 園外散步 韓啞學校行。 久野町 博文館附近 御 殿坂 華啞學校 運動 遊具にてあそぶ。 遊戯、唱歌。 其他觀察事項 幼二組参照</p>	<p>自由遊び 著音器をきく。 音と聲のきくわけ遊び。 物まはし、物真似、色 あて、ボタンかけ等の 遊び 豆細工 (門及自由) 談話 (ひきがへるぶつ)</p>	<p>自由遊び 傳通院行き。 道路左右歩行の區別、毛 蟲、蠶、お宮參詣、墓鐘 等の觀察。 明日の日曜のこと (談話) 唱歌、遊戯 (練習)</p>

幼二五月の生活

曜 週	第 一	第 二	第 三
1	<p>談話〔日曜の話、保姆及び幼児の飾りについて〕</p> <p>五月人形飾り。</p> <p>尋一と幼二と共に炭末で段をつくり、各兒仕事を分擔して飾付をす。</p> <p>鯉鱒を〔紙の鯉、風向、揚立てる〕〔びん等観察〕</p> <p>自由畫〔鯉鱒の形になる〕</p> <p>唱歌、遊戯</p> <p>鯉、牛若丸、金太郎、其他</p>	<p>自由遊び〔同前〕</p> <p>談話〔金太郎、牛若丸、金太郎、其他五月人形に就て〕</p> <p>自由畫及手技―五月節句室内裝飾物をつくる。</p> <p>養蠶―桑の葉を蠶に與へる</p> <p>發育比較觀察</p> <p>其他〔飼育動物の世話〕</p> <p>唱歌、遊戯〔同前〕</p>	<p>園内散歩</p> <p>〔びわの實、桑の漬、いちご、梨、あやめ、濱菊、あづま菊、コスモス、けいとう、だりや等の芽の觀察〕</p> <p>蠶に卵を抱かせる。</p> <p>蟻の穴、毛蟲、油蟲さがし。</p> <p>談話〔五月人形に就てのつづき〕</p> <p>唱歌、遊戯〔同前〕</p>
2	<p>日曜の話、繪に發表。</p> <p>談話〔繪についでの説明、燕の觀察〔二組におなじ〕おたまじくし觀察〔蛙になりかかると。蛙になびよん太郎の話、びよん太郎かるた。〕</p> <p>唱歌、遊戯〔燕、びよん太郎、其他〕</p>	<p>音羽護國寺行き。</p> <p>自由遊び</p> <p>自由畫〔粘土、折紙、剪紙等〕により護國寺行についでにの發表及其の整理。</p> <p>唱歌〔燕、其他〕</p> <p>遊戯〔汽車〕</p>	<p>自由遊び</p> <p>自由畫〔粘土、折紙、剪紙等〕により護國寺行についでにの發表及其の整理。</p> <p>唱歌〔燕、其他〕</p> <p>遊戯〔汽車〕</p>
3	<p>自由遊び〔花壇手入〕</p> <p>校庭散歩、笹の葉の觀察。</p> <p>〔笹舟を作り池にうかし〕て遊ぶ。</p> <p>唱歌。笹の舟〔新授〕</p> <p>遊戯。汽車、其他</p> <p>豆細工〔舟作り〕及自由</p>	<p>園外保育〔牛天神及傳道院郵便あそびに入る。郵便局郵便はがき、ポスト、カバン、繪ハガキ、郵便局〔積木にて〕等製作〕</p> <p>葉書〔積木にて〕等製作</p> <p>スタンプ押し等</p> <p>唱歌、色の舟</p> <p>遊戯〔舟の教授〕</p>	<p>自由あそび〔笹舟〕</p> <p>談話〔靴屋と小鬼〕</p> <p>自由畫〔談話の内容發表〕</p> <p>運動〔走り中踏のまね、カンガール、象の歩き方、籠ボール、其他〕</p> <p>唱歌、遊戯〔笹の舟、其他〕</p> <p>お話遊び</p> <p>明日の遠足にいての話</p>
4	<p>自由遊び</p> <p>談話〔日曜の話、保姆及幼兒〕</p> <p>誕生會の仕度</p> <p>室内裝飾</p> <p>お土産作り〔風車作り〕</p> <p>唱歌、遊戯〔練習〕</p>	<p>誕生會開會〔前月參照〕</p> <p>幼兒自らプログラム作る</p> <p>自由遊び</p> <p>〔鶏の卵孵へる〕</p>	<p>自由遊び</p> <p>〔リレー、ボール投げ、其他〕</p> <p>運動〔正直な下男〕</p> <p>繪畫〔内容の一場面〕及同上内容表現〔自由畫〕</p> <p>唱歌、遊戯練習</p>

曜 週	第 四	第 五	第 六
1	<p>節句のかざりもの作り及仕度<small>(手技)</small>のつぎき お土産、室内装飾</p> <p>明日のお節句の話<small>(談話)</small></p> <p>會の仕度<small>(プログラム作り)</small></p> <p>唱歌、遊戯、話、お話し遊び等の練習<small>(全體兒)</small></p>	<p>自由遊び<small>(同前)</small></p> <p>お節句の準備<small>(尋一幼兒會同)</small></p> <p>女兒より男兒へ悦びの挨拶</p> <p>唱歌、談話、遊戯、お話し遊び</p> <p>レコード、ピアノ等</p> <p>閉會</p> <p>自由遊び</p> <p>お土産を持ちかへる</p>	<p>自由遊び<small>(花壇の手入、飼育動物の世話、蠶の觀察等)</small></p> <p>談話<small>(魔法使ひのおはまさん)</small></p> <p>右の内容發表表</p> <p>自由畫、剪紙による<small>(手技)</small></p> <p>唱歌、燕、其他</p> <p>遊戯<small>(同上)</small></p>
2	<p>自由遊び</p> <p>園内散步<small>(昆蟲採集)</small></p> <p>折紙で昆蟲を入れるものを作る</p> <p>唱歌、遊戯<small>(汽車其他)</small></p> <p>談話<small>(乗物のいろく)</small>、繪及繪本、雜誌蒐集陳列<small>(観察せしむ)</small></p>	<p>談話<small>(汽車について)</small></p> <p>園外保育—安藤坂—諏訪町</p> <p>飯田町驛の汽車の發着及電車の發着をみる</p> <p>汽車遊び<small>(手技)</small>、唱歌、遊戯、觀察</p> <p>驛名をかいて所に貼る者、紙木で驛を作る者、切符、荷物等の製作等の幼兒活動あらはる</p> <p>鶏、ヒヨコ、小鳥の世話</p> <p>花壇の手入</p>	<p>自由遊び</p> <p>昨日の話<small>(汽車の繪の展覽會)</small></p> <p>唱歌、遊戯、練習</p>
3	<p>遠足</p> <p>陸軍戸山學校</p>	<p>自由畫<small>(遠足についての繪とき及其他)</small></p> <p>談話</p> <p>遠足の話。</p> <p>小鳥に、小鼠、勝づめ</p> <p>蓄音器をきく</p>	<p>自由遊び<small>(飼育動物の世話)</small></p> <p>花壇の手入、砂場、積木、繪本よみ、きしやご、各自の姓名發表まはし</p> <p>身體検査</p>
4	<p>自由遊び</p> <p>園外散步<small>(文館附近通過、印刷工の働きぶり)</small></p> <p>松の花、銀杏の花、菘、池、鯉、鮒、金魚、水面の波等の觀察</p> <p>ブランコ、砂場、遊動木、小山、見晴等にてあそぶ。</p>	<p>自由遊び<small>(室内遊び)</small></p> <p>物真似してあてる<small>(表情による)</small></p> <p>ユプロンのぼたんかけ</p> <p>外し</p> <p>色板ならべ、色さがし</p> <p>物まはし</p> <p>繪本朗讀</p> <p>樂隊</p> <p>唱歌、遊戯練習</p>	<p>自由遊び<small>(同前)</small></p> <p>花壇の手入</p> <p>芽生の植出し</p> <p>自由畫及手技</p> <p>談話<small>(明日の日曜のこと)</small></p> <p>唱歌、遊戯、練習</p>

種なげ遊び

生活全體が遊びである幼児にとつては、子供をよく遊ばせる事、いひかへればその本能の醇化即ち幼児の生活をより良く發揮せしめる事が教育である事は、今更申す迄もない事で御座います。

特にその精神生活は主として感覺の世界に限られてゐる此の時代には、感覺の練習が最も必要な事で、私共はいつも子供の本能活動の現れ、其の傾向、その種類等に注意しどんな感覺練習が行はれてゐるか、どんな働きに最も興味をもつてゐるかといふ點を考察してその指導に工夫しなければならぬと存じます。つまり子供にとつて一番興味ある事は、多くその心身の發達の爲めに練習の必要ある事なので御座います。幼稚園及び尋常一年の子供にとつて、多くの遊びの中でも、たゞ、ける、走る、登る、投げる等の事に特に興味を持つ事は日常よく氣附く處で御座います。

昨今は大分傾向も變り進歩して來た様ですが、兎角幼稚園遊びといふと、多く消極的で幼兒の事だから、あぶなくない様、けがのない様との心配のみ重んじられてゐたせい、自由遊びの他は先づ所謂お遊戯位で、其の幼兒相應の最も適當した運動遊技の方面は、殆ど考究されてゐなかつた様に察せられます。又幼兒の運動感覺練習についても、日常保育中各一人一人の幼兒についてどれ位考へられ工夫されてゐるか等に就ても同様の感があつた様に存じます。どこ迄も幼兒の身心の發達に心して、眞の生きた子供に接しながら、いつか知らず／＼の間に大人のあたまで作りあげた子供として見過す様の事のない様意をもちひ度いと存じます。

貧しい私の經驗からみて、日常非常に幼兒の喜ぶ運動遊戯をあげますと、シイソウ、廻旋機、ブランコ其他の機具を使ふものは勿論として、飛び

くら(幅とびのまね、其他のとび方)、どんく橋、助木登り、鬼ごっこ、綱引き、徒競争、ジャンケンとび、ボール送り、毬投げ、フットボール等て御座います。今それらの中から毬投げ遊びについて私共の取扱つた例を申述べます。おそらく毬はどなたもが扱つて居られる事で、別に新しい事でもないのですがほんの一例として記す事といたします。

用具。毬はゴム毬、布製の毬等何れも適當ですが是には、赤、白二種の木綿布で中味はもみ殻又は綿、古布を入れた直径二寸位のものを用ひて居ます。用意する場合は赤白各々少くとも一組の幼児の數はほしいと思ひます。

籠毬をする時は、籠が必要ですが、是は竹製又は針金製の物等適當で、それを支へる臺は高さ一米以上のもので、なほ高低を自由に出来るものがよいと存じます。その設備の出来ない間は

テエブルの上に火鉢の金網をさかさまにし、周圍に煉瓦積木をかこつて代用にして居りました。

なほ毬なげ遊びと申しましたが、單になげばかりでなく、毬を使つて非常に澤山の遊びが出来ます。毬さがし、毬とり替へ、毬はこび等總稱して「毬遊び」とでもいふものと「毬投げ」籠毬の凡そ三種にわけて二つ三つ宛例をあげる事に致しませう。

遊 び の 1 (毬あそび)

○全體を一行にし其の中央へ少しく小さい圓を書き、其の中に赤白の毬を四十宛位(人員の數より少しく多く)集めおく。

オルガンの合圖により、早く或は緩く曲につれ歩む間に急に奏曲を止める。それと同時に中央に入り、毬一個宛取つて早く舊の位置に歸る。毬をとつて戻つて又繰りかへす。是は極く幼稚な單純

な事であります。最も小さい組の幼児には案外面白いものであります。程度の進歩につれ、毬と人員との關係によつて、「白を一つ」或は「赤二つ」又は「白と赤と一つ宛」等の號令又は約束により順次に行はせます。

○二列圓形で外側は白、内側は赤の毬を各自が持つて、内外圓各々反對の方向に行進中、奏曲の止まる合圖に直ちに外側と内側の各兒が持つてゐる毬をとりかへるこの時兩手に持つ方を喜ぶのはいふ迄ありません。曲がなると又歩み出して是をくり返します。

○全兒を赤白の二組に分け、二米位離れた二つの線上にむかひ合ひに集らせる。各組は其色の毬を一つ宛もつて集る。次にその毬を高くあげて各組が番號をかけ數を調べる。「ヨーイ、ドン」の合圖で各自が持つてゐた毬を好きな處へかくす。隠せたら直ちに舊位置に戻る。次の合圖に依り各兒は

反對の組の毬を探しまはる。此の時一人で數個さがし出してくるくの、一個も持たずに集る者もある。兩組舊に戻つた時、前の様にして各組の毬の數を調べる。どちらが多いかを考へしめて勝負定まる。

程度の進むにつれ毬は兩手にする事も出來ます。場所は何處でも出來ますが、戸外の時は大體範圍を約束しおく事。遊戲室内等するのが最も都合よく、此の時は室内の兩側の椅子に腰かけさせ中央に集めずともよいのであります。

遊びの 2

○各兒一個或は二個宛毬を持つて、圓又は線に集る。「用意ドン」の合圖で出來るだけ高く上に投げる。落ちたのを拾つては自由に繰り返す。

○線上に並び出來るだけ遠くに横に投げる。目標を定めしめるか、毬は六米位離れた處に線を引きその線を越して毬のいく様投げる。漸次程度の進

むにつれ距離を大にし、數人宛競争的にするか、又は赤白に分れて勝負をします。」

單に投げる是れだけの事ではありません。自由に投擲本能を満足する事の出来る幼児にとつては誠に愉快な事であるらしいのであります。始めはたと投げる事だけが面白い程度であるが、だん／＼には距離に對する目標もおぼろげながら自然のうちに考へる様になります。なほベースボールスローのまね事をして興味を感じてくる様になります。

○黒板上左右に赤白各々直徑半米位の圓を書き各組の的とします。赤白の二組に分れた各兒は二個宛の毬をもつて的に對して縦列にならぶ。黒板から五米位離れた床上に兩組投手の位置を定めて書く。合圖により兩組から一人宛順に出て的をねらつて圓の中に入る様毬を投げる。投げたものは順に列の後へまはる。圓の中に當つた數を得點とし

て板上に○を記入していく。最後に各組の得點を數へて勝負をさめるのであります。

此の時自分の組の得點の合計をする事、互ひに他の組の得點の合計をする事、次に兩方の比較により、減法の行はれる事により、いつか知らぬ間に十内外の加減が會得されるのであります。數の範圍を五以下又は十以下にあるためには距離を大にし、或は距離を小にして各組の得點を増さしめ即ち毬を當り易くせしめて、數範圍を漸次にひろげて行く等は、指導者の手加減でなか／＼面白い効果が得られるのであります。又始めはたゞ矢鏢に投げてゐた子供も漸次ねらひを定め、投げ方の呼吸を體得する様になるのには感心する事、又こゝに自然の中に運動感覺練習が行はれていくのであります。

遊 び の 3

○中央の籠を圍んで二米位離れた處に全兒を圓形

に集める。「用意ドン」で各兒が手に持つた毬を中央の籠の中に投げ入れる。是をくりかへして練習するのであります。

○又赤白の組分けをして半圓赤、半圓は白とし前と同様周圍から毬を投げて組の得點を全體で數へ勝負を定めます。

○又此の時一定の時間即ち一分とか二分とかを定め、あふれた毬を拾つては自分の位置に戻つては投げ「止め」の合圖のある迄續けしめ最後に得點を數へる事もします。

時間と距離と數へる數の範圍との三つの關係を考慮しつゝ指導者は種々工夫加減すべき事。

○籠の兩側各一米半又は二米位離れた所に赤白の投手の位置をかく。全兒は赤白の二組に分れ各兒二個宛の毬を持つて先頭が向ひあつて投手の位置に立ち各組縦列にならぶ。合圖により兩方から一人宛毬を投げ入れる。投げた者は列の後方に廻る

全部終つた時各組の得點を全體で數へて勝負をさめます。

なほ籠の高さは一米以上凡そ子供の身長の程度とし、漸次にかへて二米又は二米半位に迄して行ふがよいと思ひます。此の高さにより、投げ方に對する工夫も自然のうちに幼兒自身する様になり又その指導も適當に行ふべきであります。

石を拾つたら投げてみる、棒を持つと叩きまわる、といふのは子供の自然で御座います。此の子供の自然性をゆがみなく伸ばしていくといふ中にいつもそれを善導するといふ事は忘れられない大切な事であります。投げる事それだけが愉快でたまらない子供の全我活動を見る時、籠の中に毬を入れようと、全ての身も心も一點に集めた眞面目な姿を見る時、何ともいへない愉快を覺えるのであります。是等の遊びによつて、本能の満足——善導、注意集注練習、運動感覺練習等を行ひつゝ

運動遊戯として體育的價値を充分にささめ得られ
ると同時に又數觀念の刺戟——誘導——整理、即
ち興味ある直接の事實問題によつて具體的に數と
量との關係をさとり、主として十以下の數の系列

自然に團體的訓練を修め得られ同時に團體遊戯特
有の興味を感じる等數限りない効果があります。
尙指導者の熱心研究の如何により此の他どんなに
てもよい遊戯の得られる事と存じます。

量の觀念、尋常一年に始まる前にあるべき數生活
は殆んど此の面白い遊戯の面白味の中に行はれた
のであります。又此の時の幼兒相應の距離に對す
る關係、目測等をさぼるげながら意識する様にな
つた事も認められます。幼稚園に於ける數生活指
導については、保姆として特に考を以てゐるべき
事でありまして、是等の遊戯或はじゃんけん取り
其他の遊戯の中にどんなにても自然に有價値に取
扱はれるので御座います。毎日／＼の保育上にあ
まり考へずにゐて、保育満了の間ぎわに抽象數の
計算を幼兒につめ込んだりする事は、大禁物の事
と申します。

其他全く個人孤立的の幼兒も是等の遊戯の中に

保育要目配當表

— 昭和二年度 —

熊本幼稚園

昭和二年度保育要目配當表

左の保育要目は、熊本幼稚園刊行の「幼児の保育」から轉載しました。要目研究上の參考資料として。(編者)

月日	四月九日	四月十四日	四月十六日
主要材料	入園式	見聞知り	
主材	指折り數へて待ちわびてゐた事と	新しい園児のよろこびはたとへ様	一つある相方共珍らしさと嬉しさは
觀察	菜の花	大根の花	草んげ
保育項目	園長の談話	桃太郎	幼稚園
手技	摺紙	山	積木
備考			

日二月五自 日七月五至	日五廿月四至 日十三月四自	日八十月四自 日三十月四至
旬節午端	招魂祭	天長節
のらら園ては古 前べ棚に男武へ に生をの者より 集花拵も子人形 ひ供ら幼供のな よ物へ兒ををな ろをそ等祝ふ棚し こびの共に飾り の中終武共飾り にり者語ら五月 會お人形なが五 食人ながひ日	ふと其の靈を祭る日である忠義の念を養ふ 士の靈を祭る日である忠義の念を養ふ 實に御國の爲めに盡されし忠義の念を養ふ らしめる	思ひ浮べるだに何と目出度い嬉し い日てしよう國旗の家々に翻る有 様も何ともいへぬ勇ましさである 幼なながらにも此の御目出度き日 をよくわきまへしめ將來良國民た らしめる
形武者人	飾町の装	日の丸
庭園	花岡山	町
幟と雀	招魂祭	天長節
鯉	鯉	庭に出て
同上	同上	遊ばん
同上	同上	手拍子
同上	同上	「律動」
「豆細工」 「風車」	「豆細工」 「旗」	「摺紙」 「蝶」 「塗り繪」 「國旗」
來なかつ		御諒閣に 式取り祝賀
飯事遊び程幼兒の好むものはない 終日なしてもまだあきたらぬ位で ある	「材料は郊外保育の際に集める」	八重櫻 御幸坂 指太郎櫻 可愛らし いお客様 左様なら 同上 かいぐり 「律動」
其の遊びの内何ともいへぬ親しみ を得しめ暖かき心を養ひ社會生活 の幾分を模倣をなさしめる		蜂蝶 臺所用 具たんぼ 櫻馬場 家庭
		同上
		「首錦」 花びらつ なぎ 「摺紙」 「花籠」 「粘土」 自由製作 飯事用 「書方」 自由書
		け之花岡山 に花岡山 料集めた

月五自 月五至	日六十月五自 日一廿月五至	日四十月五至 日九月五自	
郊	(車電に重)び遊物乗	會 動 運	「會食」
幼も 兒な の相 互の 親し みも の深 か く な 山、 川、 師 團 司	緑 した ゝる 葉蔭 の景 色も た と へ 様 田、 畑 花 岡 山	乗 物 は 幼 兒 の 非 常 に 好 む も の で あ る 運 動 會 の 折 に 乗 つ た 電 車 の 忘 れ な さ が い な い 其 の 興 味 を 持 つ て な る も の 運 轉 手 や 客 に あ ら う 切 符 も あ ら う 金 も 出 來 し め た い そ こ で 大 人 も あ ら う 模 倣 創 作 の 念 を 養 は し め た い	「な し 樂 し く 過 ご さ せ た い
ほ た る 同 上	靴 が な る 同 上	電 車 水 前 寺 不 思 議 な 池 の 噴 水 同 上	ぶ し ょう
表 現	「書 き 方」 保 姆 缺 員 足 な し 手 不	電 車 水 前 寺 不 思 議 な 池 の 噴 水 同 上 桃 太 郎 同 上 水 鐵 砲 水 兵 「律 動」	「書 き 方」 隨 意
			た

日六月六自 日十二月六至	日四月六至日卅月五自	日三十二 日八十二
計 時	る た ほ の月五月四 會 生 誕	育 保 外
々紀なは使六 の念く非用月 遊日は常し十 びを幾はに日 をな久ら苦 ししぬを立 思く必要派 出を忘品し 深んてある かがある片 ら爲る此 しに此 む種の	園ばべ深極 にせくくめ もた委な 幼いしす 兒をくだ して理け 飼育問と なさしめ さしめる	觀かの歌つ十登 察に魚とも三るも の表、も自跡も 材現野畫然に遊 料が菜との景ぶ を出來果物なよ くくるのるに あていろあり へらうも心 たうも朝晴 たい。も市々 何亦市場
時 計	植菊 の 苗	汽 車 令 部
	園 内	朝 市 場 二 十 三 聯 隊 跡
行おあ時 猿日計 の旅さん話		戰 日 本 海 海
お日 雨さん	笹 誕 の 生 舟 日	
びを同上 雨をほむ遊	同上 可愛 「律」 い兒	同上
「摺紙」 「時計」	「豆細工」 「螢籠」	「粘土」 「隨意」
		更 に 豫 定 變

自六月廿七日 至自七月二日	自六月廿五日 至自六月廿五日	自六月十八日 至自六月三十日
六七月の誕生会	朝顔	蛙
<p>六七月に誕生の幼児が己れの祝ひを受ける事この上も祝つてやりたしい歌に遊戯に製作に出来得る祝い福をなす愉快に過ぎて</p>	<p>植えつけ置きし朝顔も日々の育て飛び立つ程の嬉しさである、今日二輪明三日と咲くところを見たい</p>	<p>雨降り止みし後の庭にはそこ、雨から蛙が幾匹も忘れず、蛙は故に乱暴なやもはかられぬ、手を觸れず、活物愛護の念を養はしめる</p>
<p>野菜園</p>	<p>朝顔</p>	<p>田植 かたつ むり 蛙 鈴虫 鈴虫 化け 花 花 花</p>
<p>浦島太郎</p>	<p>王取朝顔</p>	<p>社 附 近 神 郎 び よん 太 同 上 同 上</p>
<p>つばめと子供 小さい庭 同 上</p>	<p>忠義な犬 私の庭 同 上</p>	<p>白鳥お口様 同 上 同 上</p>
<p>海水浴 玉 同 上 「律動」 同 上</p>	<p>兵隊波 「律動」 同 上</p>	<p>競争 輪取り 同 上 同 上</p>
<p>「草つなぎ」 「習い事」 「習い事」 「習い事」</p>	<p>「摺紙」 「摺紙」 「摺紙」 「摺紙」</p>	<p>「粘土」 「粘土」 「粘土」 「粘土」</p>
<p>「草つなぎ」 「習い事」 「習い事」 「習い事」</p>	<p>「摺紙」 「摺紙」 「摺紙」 「摺紙」</p>	<p>「粘土」 「粘土」 「粘土」 「粘土」</p>

日八十月七自 日十二月七至	日一十月七自 日六十月七至	日九月七至日四月七自
會の供子	盆 お	(會食) 夕 七
<p>幼兒相互の親しみも深くなりお友 達も出て来た。遊び等も 歌ふ事、晝く事、ち細工、遊戯等も 非常な面白く表現が出来る様にな つた。子供會を開き幼児の満 足の樂しさを味わはしめたい との親しみをも深くなさしめたい</p>	<p>先祖の靈を祭る事は大切な事て又 美しい事である。家族揃つての今日あ るを感謝して盆祭りをするのてある 幼兒にも此の念を養はしめたい。</p>	<p>七夕祭りに就ては面白い傳説があ る。神秘的な興味をあたへてあら も又連の葉に浮き水玉にて罌 り字を書けば上手になるとか色 りどりの短冊に字を記し、色 し眺めては此の上も記し、色 と満足な性情を養はしめたい の純な性情を養はしめたい</p>
金魚	打扇 蟬 蓮 提灯	お供物 星
	園庭 町	家庭
金魚と鮒	猿の 祖 人真似 先	雷と河童 織姫と んかいさ
の子供の會 の練習	の子供の會 の練習	夕日 夕立 夕魚のね 金魚のね
同 上	同 上	同 上
團扇製作 金魚鉢 作「玩具製 金魚と鉢 切抜き」	「摺紙」 蓮の花 「切り紙」 提灯 「商ひご と」	「粘土」 お供へ物 「室内装 飾七夕様 用」 既習のも のを随意 の紙 お人形 五色短冊 「切り紙」
育に の幼 印刷	父兄の 多か 出	七月二十 日に子供

日五月九自 日十月九至	日三月九至 日一月九自	
り 捕 虫	(穫收菜蔬)出思しりあに中休お	
接うら郊中察園 してこのん外に そのよなに出つ 生活こ満かて遊 状態び足はるも 態の中よふ思 も種にこ存一興 知ら々ぶ遊日味 せにのてば捕虫 たにあらしり無	もよにそす休 味手のはつみ はこに非つか せびにつ常か たのけの長なり のしを有もの成 しらせ育て熟 いもせてあるし も會しも観幼 の食も察共兒 のののさ其の よる成と穫 こ長と穫 びの共	表て澤た海ししい長 現來山のたにいお休 せるののいつなあみ しめよののしつたさ友 めろ來さもたれる達 てこ専もあよるにす たのびを胸あらこびや のし談一うこびや汽 しま話つばいに車に せたい描き抱に乗 たい方
コカ機バ鈴 口ホキマオウ織ハツ虫 ギリヒマタ	瓜ヘフ豆リキカヒ チマロウユウチポタン ウ	蔬菜園
熊本城	聯二十三 隊跡	園内
浦新 島太郎	蟻と鳩	子供の話 と保母の 話との交 換
兎の餅搗 同	虫捕 同上	鈴虫 同上
同上	同上	同上
自由畫	「摺紙」 「とんぼ」	「摺紙」 二隻舟
	得ろ以なとや屋穫る熟つ全蔬た宛物 たこ上し遊まごしのしか部菜配を びの豫びつ野ててりが園一 をよ想等ご菜收お成すのし部	

月九至日九十月九自	日二十月九自 日七十月九至	
き 蒔 子 種	兵 隨	
を感まの週蒔秋の 起じ手間さの彼 させ入をを苗の岸 せる事に蔬植をには ると手菜をなは春 共につは花す時咲 にてしめ種期く様 そ植た子蒔さあるの 物たい蒔き及この 成愛護に親花子の 長念のし壇一を	を現より常お拜藤 養さはな祭さ崎 はるよ氣され八 しるけるこ分る幡 めこれるこに祭宮 たいを印び日のは いを象としちの當 善は遊して幼日市 導しび迎兒前か ての中への間から 敬神にれにも市 の神も隨内は崇 念表兵非	
ひんほ春白京ぶ大 と草う菊菜菜根か もれ	御八 幸幡 式宮	蟻 蟬 トンボ
花 壇 彼岸の話	隨 意	
んお百姓さ	神功皇后	て隨兵に就
んかぢやさ	二百二十日のお話	秋の虫
同 上	馬 上	同上
	「組紙」 「隨意畫」 旗	「粘土」 ヒヨウ タン
びてなを種 と隨し前子 な兵た週蒔 す遊のにさ	表御幸式の 現幸式の 「隨意畫」 旗	日九 月十三 海は有明 に大つた岸 があつた が雨の大暴 たの影隨 風雨の大 響の興味 兵うのすか はつたす つた種定 變更に種 蒔きをな す

日三月十自 日八月十至	日六十二月九自 日一月十至	日四十二
物果の秋	牛	
層實の々黄 よにも観幼色 ろも察兒に こ及びはは熟 びぼ一觀し した般察て 味たい秋し行 はし手に熟味 め技す深園 るにるくの よ種なる蜜 つ々る柑に ての園て日 一果	くいを親味て牛 動遊及し深牛に 物びぼむく小接 愛にし事じを屋す 護よそによ訪る機 のつての生活たの乳事少 念をたの活状態搾であど幼 を養はしみるもしらまうらん を一層深察に興 牛乳牛	
んき蜜ば栗林柿なぶ んかない橘しう か柑	牛小乳牛 屋搾り	リチネアヒケトス ツユネンヤビキ ブーモスシシー
市園 場庭	岡田牛 乳屋牛	
太郎の笛 神太郎と 秋	虎の明神 俵藤太 父もあ黒同 さんうめん上 のぼぼと	
林檎取り	同上	
「豆細工」 「切り紙」 「果物籠」 「柿なし」 「林檎」 「塗り繪」 「果物の」 「粘土」	「牛の表現」 「牛のついで」 「牛のついで」 「牛のついで」 「牛のついで」 「牛のついで」 「牛のついで」 「牛のついで」	「塗り繪」 「塗り繪」 「塗り繪」 「塗り繪」 「塗り繪」 「塗り繪」 「塗り繪」 「塗り繪」
	岡田牛乳店から非 常に歓迎 を受け待た	

日四十月十至 日九十月十自	日七十月十自 日二十二月十至	日十月十自 日五十月十至
會動運	(會生誕月十・九・八)育保外郊	び遊屋物反
等にもろへも にこてう 導現はそ きははの 樂れど日 しくんつ くこなね 愉時であ 快機らと にうま 過遊遊 させ遊幼 たい競びの い争中	すをめ今 ご贈に週 さつ誕は せて生八 たい共會 いにを九 祝ひき 共たに に愉手 快製 な作 日を品 有收 様穫 の	ろのあこよをを こ一そのよなるを び部び模買の陳 もをを傲的兒列 味し展あ有幼飾 はらさそも達し しせてびも自 むたいな社な及 ほ會のれ反ら 同實る物 の生こ よ活つ
運動會	米有收穫の様	吳服屋唐人町
山崎校		
ひ三共あり運動會に つの願	お地藏様米	権と平藏さん 三惠比須郎 前の練習
の既習のも		
現遊びの表自由畫	同上	はた織 「律」
	果物かご 贈物製作 室内裝飾	す装飾をな 陳列及び 反物製作
	てなく出り子めな二郊 あく席父祭生し十外 つ残が兄に憎た日保 た念少の當たに育	

日四十月一十自 日九十月一十至	日七 月一十自 日七十月一十自	日一十三月十自 日 五 月一十至
ひ祝の三五七	菊	邸爵侯川細 拜參廟御
取お味經七 入宮を驗五 れた参もして三 たいりつての祝 いよりるる事と 観る事云へば 察ものあり子 を深て又供は くある非常は し遊當當常す び日日日に にののに	せいなほ 察し何か陛下 いなほ陛下の の御紋である 事を知ら	熊てなし熊 本の昔をな本 の生を偲なし んだせ細川 郷幼侯の 土史に御廟 史を幼參先 を知い祖の らせらによ たいもは
り宮詣	菊	跡野皇明朝路鐵天御 立 治市 道滿 の 天 場 線宮廟
社代 參繼 拜神	園 庭	熊 途 細 本 中 川 城 侯
の富子 紙 風 風 船 船 宿 船 が び へ 風 同 船 上 同 上 上	太郎の 鼻高天狗 笛 垣根の菊 遊 名 同 の 菊 同 びり 同 上 上	は御明加細 なし聖治藤川 の徳天清正侯 の皇 正
洋傘 「摺紙」 「摺紙」 「ごじ風船」	「造花」 「塗り繪」 「塗り繪」 「造花」	鳥隨隨紋九 帽子摺紙意土曜 子摺紙意土曜 の御
	花園の菊 がよよく出 來た	侯爵御下 縣に付き 豫定變更 す庭園の掃 除をなす

二十自 二十至	日八十三 月二十 月二十	至 自	日一十二 月一十 月一十	自 至	
葉ち落	(誕の二十・一十) 會兄父・會生		んさ兔	(祭嘗新)育保外郊	
多自然園紅 くの現内の葉 の象木のし 落葉も観葉 にも察に 観察されるよ 察せられるつ せたい郊外に 拾うてその	楓 杏 木	常盤木 落葉木 熊本 城内	せり遊びを 観察し興味 に可愛く興 幼兒にはお 毎日兔に接 に愛いさん 可兒にはと 親しみ馴れ に遊ばし味 を興味深い を發展させ をさよるこ びを材料に 味はと	蜜柑見に出 にもみかん せたいなほ るもてあら る山にてな 岡山の間に ずろくばせ よるこばせ たい	兒にもみかん 見に出かける 人も多し 此頃幼 味はあ 興味を花 生活し つてし よつた 拾ひも うしろ こり 事によ にせ 互の親 の事 せ さ な ら せ る こ う の 事 に よ つ た 拾 ひ も 興 味 を 花
	龜	兔	園内	みかん りどんぐ 花岡山	
の次郎さん ゴム球	白	兔と龜	兔の片耳	新嘗祭 小坊主 どんぐり	
もみぢ	兔と龜	同	兔の餅搗き	同上	
同	同	同	同	とあまご	
同	同	同	同	同上	
「書き方」 「表現」	贈物の製作	誕生會の飾り	兔の餅つき	自由書 みかんか ご 製作 どんぐり こま 粘土 自由	
にてなす	園内のみ	た會をな	兄と父 りやめ 誕生會 した取 しな 兄の父 日二月二		

至日九月一自	日九十月五自 日四三月五至	日二十月二十自 日七十月二十至	日五月 日十月
の月正	び遊ひ商	び遊の市の歳	いろひ
等そだへおも てのらるち幾 更まう子おつ にまい、供の月 面に、其のよ家 白カル、樂し く遊タ、いこ ばせ双六、の 正月を追羽 を一層子	ら越年年前 しの末末週 いよの買大の おろこひ出製 正月のびもの の知の遊備 たのせびに しみるよつ を深共にて める新	び玩をりはし年 の具ま等特觀暮 材製つにてに察の 料作よ遊具す賣 にするさこばに機 るさしび又味會 しめ浸準をもつ種 てるも備しちく々 ののておま、の 市正月ま、幼 の遊あるま、兒 の接	味た 深自然 い物 もの は手 に技 した たい 事 に用 ひ興
か福有正公下 壽壽月園河 た草の原	夏 蔬 花 蜜 菜 園 柑 園 園	こ た 風 手 羽 ま た こ 船 毬 子 ま こ 船 毬 板	松榎 柳 葉 葉 つた
園 家 内 庭	園 内	園 町 内	園 内
ね 羽 正 ず 根 月 み の 風 話	冬 石 至 の の 白 話	お 菓 御 子 殿 の	三 匹 熊
風	習 前 お 前 週 も 週 の つ の 練 き 練	一 君 お 年 月 が 正 の 一 代 月 暮 日	其 時 々
同 同	同 同	同 同	同
上 上	上 上	上 上	上
由 正 月 表 月 の 自 現 自	「 書 ぎ 方 」 お 金 造 り	店 の 装 飾 及 び 陳 列	「 製 作 」 自 由 。 落 葉 に て
		下 エ ン 反 た 手 風 羽 羽 駄 フ ロ 切 物 こ 塗 り 毬 子 子 「 紙 物 繪 船 板 作 「 切 り 紙 物 繪 船 板 作 「 紙 物 繪 船 板 作	

二月一至 二月一自	日六十月一自 日一十二月一至	日四十月一
び遊物乗	び遊便郵	び遊
を遊もて興電 びとある味車、 展にでるを、以汽車 さ及遊、電て車 せばは電て車 集團してはは察の の全ゐすす乗 喜幼るで經物は び兒のに驗は幼 をの力にのて兒 はで汽題ゐが せ遊車材のの たびのののに	るのら使るて郵 様ち物事來便屋 經子互にでると 験にの接あは をま通しおと 深めて信お子 た及か興正供 いのし引は月 のてい得はす であ郵てにに る便はゐ種知 に郵る々つを 對便所のても す局か郵ゐつ	楽しいものにする。
電切りふ停汽 車番み車車 車符き場車	ポ 郵小切繪端手 ス配便小包手書書紙 ト達包手書書紙	あ 霜霜 ト双 ら雪氷と霜ンラ れ け柱 ブ六
春竹 驛	園 家 途 郵便局 内 庭 中 「蓄音機」	
猩々の 旅行	慾ばり猫 んの繪本	工夫
お菓子 の	ポ ス ト	
飛行機	郵便遊び	「律」 まりと 風船
汽停積お切 車車木金符 場「」	郵便局「積木」 「郵便配達夫」 「摺紙」 「状さし」 「織紙」 「ポスト」 「塗り繪」 「書き方」 「書き方」 「繪葉書」	

至二月二十八日	自二月二十一日至六月六日	自一月十三日至二月二十四日	自三月三十日至八月三十日
人形製作	紀元節	梅 (分節)	(主に汽車)
紙細工の種々な人形をつくつて遊ぶ。中には顔工夫をこらすものもある。又着物として興味をもつものもある。力へ味をもつものもある。遊びや人形をこらしめるものもある。材料になしたくない。	紀元の佳節を祝ふと共に我が日本國と世界に無比なる國體の尊さと神話を起させると同時に雄健な精神を培ひたい。	福は内鬼は外といふ豆蒔きの行事。しそうめな。頭すうし。だらうも。暖い日を選んで梅見に出かけて、梅の花の製作に圖畫に没頭するも良い。藝術美の幾分かを感じせしめたい。	い。
人色々の形		冬椿の芽 水仙園 憲兵隊内	飛行機 自轉車 自働車
園家店內庭			
人形の旅行病院	金の鴉 紀元節の話 日の丸旗	節分の話 雪	鉢の木梅に鶯 小さい子
人形屋	君が代		切符切り
同上	繩飛び 「律」	同上 「律」	
自由 「書き方」 「切り紙」 「摺紙」 人形製作	自由 「豆紙」 「旗細工」 勳章門に旗 「書き方」	梅の花 「塗り繪」 「書き方」 「切り紙」 梅の花	ブラット ホーム 「書き方」 「乗り物の表現」
		めは取りや は出る事 に郊外 のかつた し寒さが烈 の	

月三自 月三至	日五月三自 日十月三至	日七十二月二自 日三月三至	日十二月二自 日五月二至
外 郊	紀陸 誕一 念軍 生二 日軍 會三	り 祭 雛	び遊屋具玩
の岡た暖 景山く日 色へ登なる は皆春の親 の渡しあ よすおと ろ山友ど こ々達こ びを姿一 を表、所 して田に 畑花け	暖い親しみを増したい 唱歌遊戯等各自得意の幼児相互の 祝ふ爲に賜り得意の物も又談話 一月、二月、三月に生れた子供を	な共にも家雛 ほによ庭の祭 國努力て段のり 粹保せし雛の古 存のし祭のい 念のよを備仕 をこ行に來 び愉ひ装 を感快飾 ぜ遊全 しぶ兒 めと手	念て作へ子 や玩しら供 商具るに 法の屋に の一商の備 端ごある を會つこ 得せこの せなを しし數 めるの 觀へ
麥晴か山 の芽ら上 見上		桃 雛 の 段 花	玩具の 種々の
山花 崎岡 小		千徳屋	園家見子聖 内庭の市太
ひ ば り	戦七明 様 争八治 の 談年三十 客	ち 桃 友 種 達 子 春 ひ よ な 來 ま い つり	聖 秀 の 徳 御 太 話 子 具 さん
同 上	別 修 誕 れの了生 の式日 歌歌	同	ひ ま 玩 祭 な かり 具 祭 祭 角 箱
同 上	同	同	同 上
整手 理工 帖の	玩お 賜 人製り 具形作物	お 装 製 供飾 作 物 成 内 裏	玩具製 組摺切 細り製 土工紙紙作
		會に三致なへ節人ア 開は月しおて旬形メ 催子三た祭販にをリ 供日いをか加おカ	

日六十二月三	日九十月三自 日四十二月三至	日二十 日七十
式了修	備準の式了修	育保
	修了の日は近まつて来た其の日の 爲の準備に裝飾に種々の製作に働 かせて創作工夫の念を養ふ	遊ぶ其の自然の景色の中に充分に 遊ばせのびのびとした氣持にする やがて入學すべき小学校を參觀し その様子を知らせ期待してゐる興 味を更に深めたい。
	種子蒔花 壇多喜子の夢 の練習の會同 上	草木の觀 すみれ お玉じ やくし
	蔬菜園 地藏様の村 修了式の同 上	
話談の長園		
修了の歌 別れの歌 君が代		
	「自由製 作」 ワバン 帽子 「書き方」 隨意	「書き方」 景色

童話

水谷 年 惠

六〇

七色に光る玉

のろちやんの本當の名は五郎と言ふのでしたが、誰も五郎ちやんと本當の名を呼ぶ者はなく、皆で、のろちやん、のろちやんと言つて居ました。

のろちやんは道を歩く時はのろ／＼歩きます。

御飯をたべる時はのろ／＼食べます。豆細工をする時でも、折紙を折る時でものろ／＼とやりまです。だから皆に、のろちやん、のろちやんと呼ばれるのです。

或時、のろちやんが濱邊へ出て、のろ／＼と歩いて居ました。其の中に眠くなつたので、小山の上へあがつて、ころりと寝ころんで、ぐら／＼晝寝をしてしまひました。

随分眠つてから、のろちやんは眼を覺まして、のろ／＼起上りました。眼をこすり／＼、やつとの事であけて見ますと、驚きました。のろちやんの乗つてゐた小山が、海の波の上に、ぶかんと浮いて、ぶかぶかと動いて居ります。のろちやんは「ひやーあ。」

と言つて飛び上りさうになりましたが、小山の上からひつくりかへつて海の中へおつこつてしまつては大變ですから、小山にかぎり着いて、じつとして居りました。よく見ると、小山だと思つたのは大きな大きな龜で、海邊で日なたぼっこをしてゐた龜を、のろちやんは小山だと思つて、其の上に乗つかつて、晝寝をしてしまつたのでした。

大きな龜はのろちやんを乗せて、大波を乗越え
く沖の方へ泳いでいきます。のろちやんは、始
めはこはいと思ひましたが、しまひには面白くな
つて、

「僕は浦島太郎見たいだ。此の龜は浦島太郎の乗
つた龜より大きいぞ。」

僕は今に、きつと龍宮へ行つて、乙姫様に御馳
走になるんだ。」

と言つて、大威張に威張つて居ました。龜はうん
ともすんとも言はずに、廣い／＼海の上を
どん／＼泳いでいきます。のろちやんは、

「まだ龍宮ぢやないのかえ、早く龍宮へ行きたい
なあ。だが乙姫様から玉手箱は貰はない事にしよ
う。浦島さん見たいに、箱の中からけむが出て、
白髪の爺いになつてはつまらないから。」とひとり
言を言つて居りますと、龜は急に獨てぶく／＼と
水の中へ沈んで、何處かへ逃げて行つてしまひま

した。

のろちやんは龜においてけぼりを喰はされて、
あつ／＼と波の間で溺れさうになりました。溺
れて死んでしまつては大變だと、のろちやんは手
足をのろ／＼動かして泳ぎ出しました。何時まで
泳いだら、濱邊へ泳ぎ着けるのでせう。のろちや
んは仕方が無いので元氣を出して泳いで居りまし
た。

すると、何時の間に出て來たのか、大きな／＼
鰐ざめが、のろちやんの鼻の先へ出て來ました。
のろちやんが吃驚して、「あつ」と言つた時には、
もう鰐ざめは、ぱくりと／＼のろちやんを一呑に呑ん
でしまつて居ました。可哀相に、のろちやんは龍
宮へ行くかはりに、鰐ざめのお腹の中へ這入つて
しまひました。

のろちやんを一呑にした鰐ざめは、お腹がふく
れたので、元氣よく海の水の中を、しゆつ、しゆ

つと泳ぎ廻つて居りました。鰐ざめのお腹の中へ這入つたのろちやんは、眞暗な所へ行つて、何が何だかわかりませんが、鰐ざめのお腹の中を、のろ／＼とさぐつて廻りました。

其の中にピカールと青く光つた物がありました。

「ちやつ、何だもう。」

とのろちやんは目ばたきをして、も一度よく見ますと、今度はピカールと赤く光りました。次には紫色にピカールと光りました。其の次には橙色にピカール。

「これは面白いね。」

とのろちやんが、又まばたきをすると、今度は黄色に光つたり、緑色に光つたり、藍色に光つたりしました。

ピカール、ピカール、其の光の美しい事、のろちやんが光りの色を、のろ／＼と勘定して見たら

青に、赤に、紫に、橙に、黄に、緑に、藍と、丁度七色ありました。

「随分綺麗だなあ、何が光るんだらう。」

のろちやんは、其の光る物を掴んで見ました。すると、その光る物はのろちやんの眼の玉よりづつと大きい玉でした。のろちやんは鰐ざめのお腹の中で、

「これはいゝ玉を見附けた。」

と大きな聲で言ひました。

其の時鰐ざめは、海の中に張つてある網にひつかしてゐました。船の漁師達が、網を引あげて鰐ざめをつかまへました。

「大きな鰐ざめだなあ。」

「ばかに腹が大きいよ。何を呑んで居るだらう。」
と言つて漁師達は見て居りました。

すると、鰐ざめのお腹の中で、のろちやんが、
「誰か出してよ、僕鰐ざめに呑まれたんだよう、

早く出してよう。」

と叫びました。漁師達は鰐ざめがものを言つたと
思つて、吃驚してしまひました。

「やあ鰐ざめが何とか言つてるよ、これあきびの
悪い奴だなあ。」

「此の腹の中に人間が居るかも知れないよ。」

「早く濱へ行つて割いて見よう。」

漁師達は急いで船を濱邊へ着けました。そして
鰐ざめを砂の上へほうり出して、腹を切割いて見
ました。鰐ざめのち腹の中で、もぐもぐやつて居
たのろちやんは、腹の切目から真先に片一方の手
を、のろつと出しました。すると、手に握つてお
た、玉がピカールリと青く光りました。と又すぐ、
ピカールリと赤く光り、ピカールリ紫に光つたと思ふ
と、ピカールリと橙色に光つて、ピカールリと黄色に、
ピカールリと緑に、ピカールリと藍色に光りました。

漁師達は吃驚仰天、これは化物だと思つて、皆

逃げて行つてしまひました。のろちやんは、のろ
くくと動いて、少しづつ鰐ざめの腹の中から出て
來ました。のろちやんが、のろく動く度に、鰐
ざめの腹ものろくくと少しづつ動きました。

それを高いく空の上から一羽の大きな鷺が見
下して居ました。鷺は砂の上に、何かうまさうな
御馳走があるやうだと思つて、大きな眼をして舞
下りて來ました。そして鰐ざめの腹の所をつつい
て、腹の中の物を掴み出すと、又すつと高い空
の上へ舞上りました。鷺にひつ掴まれたのはのろ
ちやんでした。

のろちやんは眼がまつて、暫くは何も見えませ
んでしたが、少したつと、青々と樹の茂つた山も
見えます、長々と流れる河も見えます。走つて行
く汽車も見えれば、帆を張つた船も見えます。家
はマツチの箱位で、馬や人は蠶豆や小豆位にし
か見えません。

のろちゃんは面白がつて、

「萬歳々々。」

と叫んでゐました。鶯はのろちゃんを掴んだまゝで、山の上を過ぎ、野の上を飛び、海のをかけつて、何處か遠い〜よその國の空へ飛んでいきましました。

のろちゃんは、少し寒くなつたので、クシヤンと大きなくしやみをしました。くしやみをした拍子に、鶯がのろちゃんを放してしまつたので、のろちゃんは、眞倒に下へおつこちて來ました。のろちゃんは大きな森の樹の上に落ちて枝にひつかゝりました。

「あゝ危かつた。でも大丈夫だつた。」

のろちゃんは樹の上から、のろ〜と地面へ下りました。手にはまだ七色に光る玉をしつかり握つて居りました。森の中は廣くて廣くて、どつちへ行つてもお家も無ければ、人一人通りません。

其の中に日が暮れてしまひました。のろちゃんは困つてしまひましたが、仕方がないので大きな樹の洞穴の中へ這入つて寢る事にしました。

とろ〜と眠つたかと思ふと、樹の洞穴の外を小人のお爺さんが、唄を歌つて通つて居ます。

七色に光る玉どこいつた、

王様のおあとが繼げるぞ玉出て來い。

七色に光る玉持つて來い、

王様のお國がそつくり貰へるぞ。

かう言ふ唄を歌つて、小人のお爺さんが通りました。のろちゃんは之を聞いて、すぐに樹の洞穴を飛出して、小人のお爺さんのあとを追かけました。

「お爺さん僕が七色に光る玉を持つて居るよ。」

と言つて、七色に光る玉を見せると、小人のお爺さんは、

「どれどれ。」

と言つて、じつと玉を見つめて居りました。玉は

ピカーリ、ピカーリ、青に、赤に、順々に七色に光りました。

「あゝ本當だ、確に七色に光る玉だ、さあお前さん私と一緒にあつて、王様がお待かねだ。」

と言つて、小人のお爺さんはのろちやんを連れて王様の御殿へ参りました。

王様は大層お喜びになつて、のろちやんを御自分のおあと繼になさいました。そこののろちやんは王様になりましたとさ。

虹の橋

A・B・C

コロンブスがアメリカ大陸を發見しないズツトく前の事土人とてもあまり澤山あませんでした。晝でも眞暗で何が飛び出すやら分らない大きな森が一面に擴がつてゐて朝に晩に虎や猪や狼などの恐ろしい唸聲がそこら邊の土人を慄ひ上がら

せてゐましたが、朝早く太陽が何千哩か果ての大空からニコ／＼と昇つて來る時や名もない小鳥がチュー／＼樂しさうに歌ひながら罅に歸る時や、澄み切つた空からお星様が眞黒な森を見下ろして眼をバチ／＼させてゐる時や又クリスマス近くになつて眞白な雪の野山へあたゝかい虎の毛皮にくるまつて土人が橋の鈴を元氣よく鳴らしながら狩に出かける時など、それは今の人には到底分らないものでした。

その大きな森の中に鏡の様な美しい湖があつて、そのすぐ側に大變立派なお家がありました。そのお家の中に雪姫といふ名の通りのきれいな女の子と鹿丸といふ男の子がたつた二人切りで住んでゐました。時々雪姫が村までお使ひに行くときなど行き會つた土人等はまるで女神にでも會つた様に地面の上に面をすりつけて拜むのでした。一方鹿丸は弓の名人で那須の與一といつてもよい位

て鹿丸に見つかつたが最後どんな虎でもライオンでも生命はないものとあきらめねばなりません。冬になると朝早くから鼻のちぎれ落ち相な寒い日でも櫛にのつて獵をしてゐましたが誰一人鹿丸の姿をほんとうに見た者はありません。

「さあ、鹿丸さんのお通りだ、あれッ、鈴の音があんなに聞えるが……」といつて大急ぎで戸をサツト開けて見ても只眞白な雪の上に櫛のあとがついてゐるばかりで一向姿は見えません。

或日の事雪姫から大變な事が村の女の子等にふられました。それは鹿丸さんの正體の分る人は月の世界に行つて永く／＼幸福に一緒にくらせるといふ事でした。それでなくとも鹿丸さんの正體をおがみたいといふ人が一杯なのに村中、そのふれをきいた時煮えくり返へるほどの騒でした。我先にと遠い淋しい暗い森の路を歩いて湖のお家までわざわざ／＼出かけて行く女の子が、毎日引きも切

りませんでした。みんなしほれて歸つて來なければなりません。

村端に太郎兵衛さんといふ慾ン坊の爺さんがゐました、その爺さんに三人の女の子がゐました、一番末の子は一番きれいで伶俐でおとなしいので村の人から一番可愛がられてゐましたが上の二人の女の子はそれがにくらしくていつもいぢめてゐました、或日二人の女の子が森のお家へ、やはり出かけて行きましたがその時早く手傳つて首環をきれいにしてくれないといつて末の女の子にそこにあつた熱灰の桶を投げつけました、そのために大事な顔も髪も引きつり生れもつかぬ不具者となり眼も鼻も口も目茶苦茶になつてしまひましたのでそれからはみんな目茶苦茶坊主といつて見向きもしてくれない様になりました、どんなにお爺さんや上の女の子等にいぢめられても誰もなぐさめて涙をふいて呉れる人もなく、又どんなにひどい

仕事をしても誰も手傳つて呉れるものもございませぬ。

案の定二人の女の子もしほれて歸つて來ました、今では村中の女といふ女の子で森のお家へ行かないものはなくなりました、それを耳にした目茶苦茶坊主は心の中でにつこり笑ひました、「あゝ、もう私だけです、私も行つて見ませう」と或朝誰も起きない内に、見つからぬ様にそつと出かけて行きました、一生懸命ですからちつとも休みもしないでズン／＼歩いて行きました、森のお家へついたのは夕方でした、丁度その時雪姫が鹿丸さんのお歸りをまつて門の前に立つてゐましたがみすぼらしい小さい目茶苦茶坊主の姿を見るなり「待つてゐました」といはんばかりに親切に迎へてくれました。

やがての事鈴の音が聞えて來ました「さあお迎へにまゐりませう、兄さんのお歸りです」と目茶苦茶坊主の手をとつて門の前へ走つて出ました、

「兄さんの姿が見えて！」

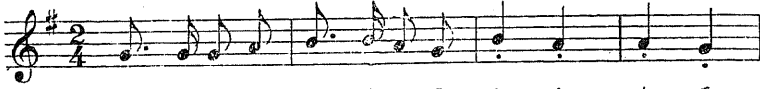
「あの櫓はなーに！」

目茶／＼な目を一杯開けてその方を見ましたとき目茶苦茶坊主の顔色がさつと光りました。

「アレ／＼、すばらしい事、うそかしら、ほんとかしら、マアきれい！ 虹の櫓に金の兜！ 七つの色があんなに見事に光つてゐます」といつたきりしばらく見とれてゐましたが、氣がつかました時には、今まで着てゐたボロ／＼の着物もみつともない顔の疵も何處へか消え失せ、まぶしいばかりのお姫様になつてゐました。そしてすぐ側に雄々しい立流な鹿丸さんがニッコリ笑つて自分を見てゐるではありませんか、あんまり不思議なのとあんまり嬉しいのとで氣が又遠くなるほどでした。やがてみんな打ち揃つて虹の櫓のり雪姫が案内役になつて今まで住んでゐた森のお家をはなれてダン／＼高く月の世界へとのぼつて行きました。その時天からきれいな鈴の音が村の人達に聞えて來たといふ事です。(アメリカカ士人物語)

時 計 の 歌

♩=92



ト ケ イ ハ ア サ カ ラ カ ッ チ ン カ ッ チ ン
と け い は は ん で り か っ ち ん か っ ち ん



オ ン ナ ジ ヒ ビ キ デ ウ ゴ イ テ ラ レ ド モ
わ れ ら が ね ど こ で や す ん で を る ま も



チ ッ ト モ オ ン ナ ジ ト コ ロ マ サ サ ズ ニ
ち つ と も や す ま す い き を も つ か ず に



ハ ン マ デ カ ウ シ テ カ ッ チ ン カ ッ チ ン
あ さ ま て か い し て か っ ち ん か っ ち ん

時計の歌

土川五郎振

一、とけいは……兩手を胸前上にあげ直ちに左右
下に開く

あさから……掌を向き合せて兩手を前より頭
上にあぐ

かつちんく……手先さを左右に振りつゝ足

踏四回

おんなじ……兩脛を曲げ軽く横腹につけ前膊
を立て兩食指を立て鍵の如くに指先さを
曲げ他指を握りて手頭より先さを胸前に
相對して曲げる

ひび……右手前膊を左へ倒し左前膊を左へ開
く

きて……左手を右へ倒し右手を左へ開く

うご……「ひび」と同じ

いて……「きて」と同じ

おれ……「ひび」と同じ

ども……「きて」と同じ

ちつ……兩手を左下方へ伸ばし顔を手先に向
く

(兩食指を伸ばし他指を握る)

ともおんなじ
とふろをさゝすに
右手を伸ばしたるまゝ上

へ頭上を通りて右側方より下を経て左下
へ(一小節に二回動く様に)と大廻りにま

わす、目を右指先につく

ばんまで……右足右へ一步兩手にて體前より
打ち下ろす次に左足を右足につけ兩手を
左右下に開き左つま先にて床を打つ

かうして……左足を一步左へ又兩手にて體前
より打ち下ろす、次に右足を左足につけ
兩手を左右下に開き右つま先にて床を

打つ

かつちん……「ばんまで」と同じ
 かつちん……「かうして」と同じ

二、とけいは……兩手を兩側より頭上に丸くあく
 ばんまで……兩手を前より下へ無造作に下ろす

かつちん……下げたる兩手を左右に振ること四回(下を向きて)

われらが……右足を少し高く持ちあげて右へ大きく一歩右膝を曲げ左足を伸ばし、右掌を上にして右へ出し(掌を平らに)左手は斜左下に伸ばし顔は右掌の方に向く
 ねどこで……左足左へ左手を左へ前と反對になす

やすんで居れど……右膝を床につけ兩掌を合せて頭を左に傾け左頬を右手の甲につける

ちつ……直立して右へ回轉しつゝ兩拳を握り

右拳を右側方より上へ、上より胸へ左拳を下より左側方へ、

とも……左拳を左側方より上へ上より胸へ右拳を下より右側方へ

やすまずいさをもつかずに……左右拳を交互に回はしつゝ八步右回轉して正面を向く
 あさまてかうして……第一の終り「ばんまで」と同じことをなす、



雜錄

明治節唱歌歌詞募集

今般當省ニ於テ左記要項ニ依リ毎年明治節當日全國小學校及ヒ其ノ他ノ學校並ニ男女青年團等ニ於テ歌ハシムヘキ唱歌用歌詞ヲ募集ス

一、歌詞ハ明治節當日奉唱セシムルモノトス

一、歌詞ハ小學校兒童ノ歌フニ適スル程度ノモノ

タルヘシ

一、歌詞ハ二節又ハ三節トシ一節ノ長サハ四句又

ハ六句トス但シ四句ノ場合ニハ折返シノ一句

ヲ加フルコトヲ得

一、歌詞各節ノ相當句ハ其ノ字脚ヲ一樣ナラシム

ヘシ

一、漢字ニハ振假名ヲ附スヘシ

一、募集期限ハ本年四月三十日トス

一、應募歌詞ハ一人一篇ニ限ル

一、應募者ハ宿所氏名ヲ歌詞及ヒ封筒ニ記入スル

コトナク別紙ニ記載シテ嚴封シ更ニ之ヲ歌詞

ト同封シテ文部省圖書局宛前記募集期限内ニ

到達スルヤウ差出スヘシ但シ上封ニハ『明治

節唱歌應募歌詞』ト記載スルコトヲ要ス

一、用紙ハ半紙トス

一、應募歌詞ハ當省ニ於テ審査シ優等ト認メタル

モノハ官報ヲ以テ之ヲ發表ス

一、入選者ニハ夫々金百圓乃至千圓ノ賞金ヲ贈與

ス

一、入選歌詞ノ著作権ハ當省ニ屬スモノトス又該

歌詞ヲ使用スル場合ニハ當省ニ於テ之ヲ修正

スルコトアルヘシ

一、應募歌詞ノ原稿ハ一切之ヲ返附セス

昭和三年三月

文部省

大禮奉祝歌明治節唱歌募集 に就て

圖書局

今度文部省が大禮奉祝歌と明治節唱歌とを廣く國民から募集することゝなつたに就て、その規程や手續に關し種々の問合せがあるが、その中最も多い疑問に對し一應の解説を試みたいと思ふ。

その一は

「一節ノ長サハ四句トス但シコレニ折返シノ一句ヲ加フルコトヲ得」

といふ點であり、その二は

「各節ノ相當句ハ其ノ字脚ヲ一樣ナラシムヘ

シ」

といふ點である。此の二ツは例についていふのが一番解り易いから、左の歌に依て一緒に説明することとする。

運動會の歌

一、強く體を馴さんと(第一句)

堅くこゝろを鍛へんと(第二句)

日頃つとめし練習の(第三句)

出来ばえ見するは今日なるぞ。(第四句)

振へ、振へ、わが友。(折返し)

二、からだあくまで健かに(第一句)

心ますく爽かに(第二句)

われら子どもの盛なる(第三句)

元氣を見するは今日ならず。(第四句)

振へ、振へ、わが友。(折返し)

これは尋常小學唱歌第五學年用にあるものだが、丁度一節四句で、最後に折返しの一節があるものゝ一例である。或は最後の折返し

「振へ振へわが友」

の代りに第一節に於ては

「出来ばえ見するは今日なるぞ」

を、第二節に於ては

「元氣を見するは今日なるぞ」

を繰り返してもいい。又、

「各節ノ相當句ハ其ノ字脚ヲ一樣ナラシムヘ

シ」

といふのは、前の歌を調べると

第一句 七、五

第二句 七、五

第三句 七、五

第四句 八、五

折返シ (六、四)

となつて居て、各節第一句七、五第二句七、五第三句七、五第四句八、五と一樣になつてゐる。之を指

して

「各節ノ相當句ハ其ノ字脚ヲ一樣ナラシムヘ

シ」

と言ふのである。故に若し第一節に於て

第一句 七、六

第二句 八、五

第三句 七、五

第四句 八、六

の形を採るなら、第二節以下に於ても第一句は七、六に、第二句は八、五に、第三句は七、五に第四句は八、六にしなければならぬ。之は作曲上の關係から斯く定めたのである。

疑問の三は

「應募者ハ宿所氏名ヲ歌詞及ヒ封筒ニ記入スル

コトナク別紙ニ記載シテ嚴封シ更ニ之ヲ歌詞

ト同封シテ差出スヘシ」

といふ點である。之は一に審査の公平を期する爲めに設けた規程で、歌詞受理と同時に歌詞と住所氏名を記した紙の入つて居る封筒に合番號をつけ、歌詞の審査に當つて作歌者の誰たるかを知り得ざらしむる爲である。そして假に第百番といふ

番號の歌が最優と決した時に始めて第百番といふ封筒を開く。すると中に何某といふ作歌者名とその住所とが記された紙が入つて居て當選者の住所氏名が判明すると云ふ次第である。故に應募者は住所姓名のみを紙に書き、之を一度封筒に入れ、歌詞には住所氏名を書かずに先の住所氏名の紙の入つた封筒と一所に更に封筒に入れ、裏には住所氏名を書かずに差出すのである。

以上の外三月二日の官報を参照して、昭和の新政に相應しい大禮奉祝歌、又明治の聖代を偲ぶに足るべき雄大な秀歌を數多く應募せられんことを切望する。

稟告

注 文 規 定

一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說
 調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
 二、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字
 下げること。また句讀點は一字あけること。
 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新
 刊書、交換雜誌、入會手續、更に
 本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切
 左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
 日本幼稚園協會

一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい
 居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校
 附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申込下さい。
 一、日本幼稚園協會員外にて本誌御注文の方は凡て前金
 (郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七
 二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特
 に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封
 に『前金切』の印章を押捺いたしますから其節は早速御
 送金を願ひます。
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひ
 ます。

定 價

一ヶ月分一册	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ年分六册	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳册	金四圓貳拾錢	送料共

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

昭和三年四月十日印刷
 昭和三年四月十五日發行
 幼兒の教育 第二十八卷第四號

不 許 複 製
 禁 轉 載

編輯兼 發行者
 東京府豊多摩郡戸塚町大字戸塚五七五
 堀 七 藏

印刷者 小長谷 勝之助
 東京市牛込區西五軒町五二番地
 印刷所 行政學會印刷所

發 行 所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

告 廣

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓
 一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷

神田區南甲賀町八品田與込に御申込下さい

最高級の國定教材研究

動物教範 理科教範 理科研究

全三卷

菊判クローズ特製挿繪多敷

定價金拾貳圓

くあにはと
もるり同
岸田農林省囑託

ううしまぎ
同長木村
畜産試験場

せほろみ
岡崎學習院教授

とがあほ
んばしたる
同同同同同
矢野東大講師

ほかろも
るふし
加藤野東大講師

かろも
へてん
横山桐郎博士
岡田東京高師講

上巻 (目次)

ずいむし
同

うんか
木下農事試験場

かみずすまし
同

げんごろう
山田傳研技師

いしがめ
矢野東大講師

ふなび
教員尾水産講習所

へずみ
木下農事試験場

ねずみ
岸田農林省囑託

つばめ
同

すばめ
内田清之助博士

かひこ
横山桐郎博士

中巻 (目次)

ちくそらやき
同

みかたつむ
内野平瀨學士

たいじん
同

みかこ
同

かこにび
同

えいめん
寺尾水産講習所

かいめん
同

さんご
同

二枚貝
同

なご
同

うに
妹尾水産講習所

下巻 (目次)

日本一の兒童讀物

新刊少女 常識叢書

全三十卷

四六判美麗上製

定價各册金壹圓

(10) 人の行く道
箱大盛塾師
箱大盛塾師

(9) 瓦斯の魔力
社井早大助

(8) 發明家と發見家
岡東京高師

(7) 興味の世界
高師東京女
高師東京女

(6) 動物の生活
立田中東京府

(5) 火と空
子師東京女

(4) 蒸汽の偉力
社井早大

(3) 植物の世界
小松高師

(2) 地盤の知識
古川東京女

(1) 地盤の知識
古川東京女

(20) 世界の氣候
子高師東京女

(19) 鐵と石油
子高師東京女

(18) 國語の知識
鈴木勇八中

(17) 格言ものがたり
金子東京女

(16) 算術の知識
肥後學務院

(15) 海中旅行
中師東京女

(14) 空中動物園
小松高師

(13) 無線電信電話
助社井早大

(12) 南半球巡り
佐藤東京高

(11) 昆蟲の世界
岡東京女

(30) 心の算術
教諭

(29) 録倉物語
坂口鐵口臺

(28) 我等の身體
岡東京女

(27) 現代常識語彙
金子東京女

(26) 地下さぐり
日井洋立一

(25) 寫生の樂み
中川文那省

(24) 理化學實驗
岡東京女

(23) 飛行機の話
岡東京女

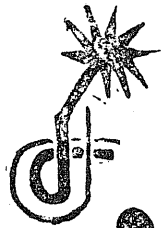
(22) 北半球巡り
山東京高

(21) 偉人の生涯
水谷東京女

東京・牛込四文洋社 振替東京番 一五〇九四

抒情詩集

いとしま泣きぼくろ



サトウ・ハチロー著 吉邨二郎装幀

四六判上質紙二百十餘頁朱子製本天金極美裝 最新刊

定價 壹圓六十錢 送料 十二錢

私は、ほんとにやさしい喜びを持つて皆さんにこの詩集を捧げます。爪色の雨以後の多くの少女雑誌、婦人雑誌へ發表したものは、みなこの本のなかにあります。その他折にふれ私のやさしい心をうつものがあつたとき書きとめて置いた短唱もすべて入れてあります。

いとしき人に

いとしき泣きぼくろありき

まつ毛をつたふみぞれに

いつも黒くぬれそぼちたりき

私は、この本が一冊でも多く買れて、この本を讀んだ人の心のやさしさを育て、くれれば幸ひです。心やさしき人に私は「いとしきなきぼくろ」を捧ぐ。美しき人にはこの詩集を捧げます。

少女讀物白眉

サトウ・ハチロー譯 非水装幀

世界名詩物語

四六判二百數十頁極美裝 定價壹圓六十錢 送料十二錢

エクトル・マロー原著 非水装幀
片岡鐵兵氏譯

あゝ 故郷

四六判二百數十頁極美裝 定價壹圓六十錢 送料十二錢

文洋社

東京市牛込區 西五軒四三番

振替東京一〇九四〇番 電話牛込四三〇番

観察繪本キンダーブック

第參編 櫻の卷

定價 五十錢

贊助員 (いろは順)

東京女子高等師範學校教授	堀 七藏
同附屬幼稚園主任	
日本幼稚園協會主幹	
東京女子高等師範學校附屬幼稚園主任	及川ふみ
目白幼稚園長	和田 實
日本女子大學教授	河野清丸
同附屬小學校主任	
東京女子高等師範學校教授	土川五郎
瑞穂幼稚園長	倉橋惣三
東京女子高等師範學校教授	藤 五代策
東京女子高等師範學校教授	朝尾清記
東京都社會課	岸邊福雄
托兒所指導員	
東洋幼稚園長	森川正雄
奈良女子高等師範學校附屬幼稚園主任	

第三編の櫻の卷の目次

1	表紙	紙幼きワシントン
2	1	櫻花の種類
3	2	靖國神社
4	3	サクランボ
5	4	櫻の病氣と害虫
6	5	櫻の各部擴大
7	6	嵐山の渡月橋
8	7	吉野の満開
9	8	幼稚園のお花見
10	9	勿來關
11	10	兒島高德
12	11	藤原時代の花見
13	12	全國の櫻と風俗
14	13	櫻桃の採集
15	14	十六日櫻(傳説)
16	15	櫻の製品
17	16	花咲爺(附録)

唯今満開の日本の國華「櫻」に就いて、その理科的、藝術的及び歴史的各方面から、幼兒方に理會の出来る様、美しい繪畫と童謡とで描き綴られた幼稚園讀本であります。第貳編から「コドモノクニ」の倍の大きさになり、殊に本號は立派に出来ました。各御園の御後援により、望外ノ盛況を呈しましたことを感謝致しますと共に、尙幼兒教育の爲め、一冊も多く御家庭へ御勧め下さることを懇願致します。

發行所 株式會社

東京小石川區指板
フレック
 電話小石川六三〇一番
 振替東京六三〇一番

